

支那文学史
英文学史

近世小説史
百人一首講義

特別

14

2236

18



特14

2236

18

支那文学史
近世小说史
英文学史
百人青谱義

合

島村生

明光武五年十月五日
明光武五年二月十日

支那文学史
育藤木述



支那文字

◎ 總論

支那文字の考へ方々々々四トナス 究明時代 (周) 訓詁時代 (漢) 理氣時代 (宋) 考證時代 (清) 下ノ後世ニ至リテ近キルモ今
 此モ直本ノ周時代別究明時代ニ歸スルナリ 周代ノ好テ人
 ノ語ヲ奪取シ人ノ言決行爲ニ倣フハセザリシナリ 何シモ若
 自漢ニ於テ割始シ人ノ外ニあるコトハセリナリ 所謂究明ノ
 時代ニナリ 然ルモ周ヲ過キテ秦ヲ經漢ニ至ルモ皆造
 書スルナリナリナリ凡テ無信ナリ 文ヲ作ルルカ司馬遷ノ如
 シ大言敢造中ニ無信ナリ又モアシ氏概シテ且評ハ後
 シテナリ 秦代ニ至リテ書ヲ續キ儂ナリ 坑ニシテ無信ノ極ナ
 リ之カ爲メニ漢代ニ至リテ古書ノ搜索ノ余念ナリナリ 古

書ヲ撰出シテ以テ之ヲ流ク樂ム故ニ直書シ起ル
テ一屬進歩スルノ觀念ヲ示スル也而シテ淮南子(新著淮南子)
子アリ王充(新著論衡)揚雄(新著方言)大志(經)等ハ
志モ著シテモテ何モ文壇ニ旗幟ヲ立ラセリ且他漢
代傑者(漢)ノ訓詁ノ書ヲ以テ益ク其別文字ノ解釈者ニ爲
キヤリシヤ

所謂訓詁尤モハ漢ヨリ先ニ已ニ其書ヲ完キシヤ周代
ノ字ヲ解釈セシハト子夏(新著)最ニ著シテ新爾雅(新著)ヲ書ス
周代ノ訓詁セシモノハ書最ニ著シ然レハ先漢ノ代ニ至リテ
通セテ爾雅ノ注解又出デタリ而シテ周代ノ訓詁漢代
ノ訓詁ニ異ナリ所ア周代ニ甲乙之語ニ異ニシ列毎ニ異ニ
語ヲ用ユ故ニ之ヲ集メテ成シテ爾雅ナリ是カ意因ハ

周戰國ノ世ナリ人々ニ往來スルモノ入テ破ラセバ天下ヲ取テ
トス而シテ天子變シテ前ノ語ヲ廢シテ已シ用井シ言語ヲ用
井シム故ニ異ニシ國ヲ取リテ天下ヲ取ル中ハ其國ノ語ヲ用
ヒテ合マテ用ヒ来リシモノハ通用ス之支那ノ言法ト歷法ト
以テ國民ノ統制ニシヤヤ自天天下ノ治亂ニ與テシ所以
ナリ一語モモ言法ト同シノ天子變シテ變ラレリ周代ノ始メ
迄ノ字ハ一度ニ變リテ周ノ宣王ノ時ノ史籍ニシテ文字ヲ依リ
世ニ行ル後ニ至リテ各國互ニ文字ヲ制シテ通セズ耐受ハ如
キ其例ナリ而シテ略多ク定メラルヲ以テ益不通トナリシヤ之ヲ
以テ爾雅ハ諸邦ノ字ヲ集メ諸邦ノ通シテ法ヲ用ラセリ
漢代ハ古ノ事ハ分ズ故ニ主ニ訓詁ヲ用テ後テ奇書ノ文
モナシ唐宋ノ時代ノ文見ルキ多ク之カ爲リ漢ノ國時代ニ

リ唐に至りては文藝^{文学}ノ變化アリ古人ノ説ノ多ク見テ人各有
其思想アリ然レドモ在リ且前代ノ字引(詞話)出末テ
アノ方爲メ其旨訓治ノ如要ナキコトヲ古文ノ復古ヲ至ルハ
自心ノ思想ヲ述フコト由ル併ニ皆周代ノ根據アリ韓
退之ノ如クモ周禮儀礼礼記上下ヲ融リ上手ニ説キコトヲ
以テテ後世ニ至リテ人ノ氣ハ高尚ニシテ古書ヲ更ニテ
發見スルコトアリ(樸骨脱体)此ノ宋ニ至リテ思想ニ更ニ大ニ
高リテ程子朱子出テ漢代ノ詞話ヲ棄リ破リテ
清ニ至リテ經書ニ見テ聞キコトヲ集メ附記シテ詞話ヲ
止メ一言毎ニ沙汰ヲ取リテ已レ信ヲ説キテ所調折
衷況之ナリ
他ノ一ハ流リ漢書内は成惠お侍ノ如ク唐ヲ破リ

仙居杯ノ劉天武氏臣言トナシテ書キシモノ或ハ虚實ニモ
俗語旅リテ書キテ大體ナリト説カモ人周以上ニ多ク
シ莊子ノ也ト凡ノ活人ト凡ノ活レテトト説カモ終緒ヲ開
キシ人而ノ莊子ノ解人ノ合リ見テ主観トセテ虚言
ナドモ多ク是レ後世ノ寓言トシテ寓言トシテ説カモ後論
ニ至リテハ此ノ説トシテ文キテ書キテハ劉向ノ如クハ七界ト
シテ書ノ中ニカ説キテ語アリ又彼ノ詩經ノ如キモ此ノ説
トシテ見スキモノアリ楚辞ナドモ此ノ劉向ノ説リノ活
ラ人ノ合リ見キ程トシテ説キテ則チ人ノ合リ見キ程
ノ意ニテカ説ト名ケテハ此ノ説字トシテ周ニモハ周礼ノ
周禮ノ中ニ稗官トイフモノアリ稗官トイフモノ色々ノ言白
キモノヲ集メテ文庫ニ納ク役アリ唯石田忠煥ナル周礼

上ノ段ノ外ニ新説ナリシテ皆周ニシテ見ルニ「後世漢
以下ヲ後世トイフ」此トモ道徳仁義礼智信ノ道徳者
テ仁義礼智信ヲ五常トシテ此五常ハ天下ニ世ノ基本
ナリ漢以下今ノ世ナリテ人ノ疑ハレ所ナリ道徳ハ道徳五
常ハ五常トシテ分ツテ是等ノ徳ハ今即ハ依リテ名テ
シモノナリ。道(三皇)、徳(五帝)、仁義(三王)、礼
(周)、智(周末)、信(漢) 斯ノ如シ周末ニ信トイ
フモノナシ彼ノ老子ノ道徳ニシテ説キハ三皇五帝ノ歴史
ヲ測ル研究セシニ由リテ人ト人トノ關係ハ道徳ハ人ト人ト
ノ交々ナリトシ今世ノ説ハ支那ニ於テハ人ト人トノ徳
ハリ漢ノ道ナリ
之五仁義ヲ以テ政ヲ施シ國ヲ治ムルハ故周ノ世ニ在リ

夫礼ナシモノ多ク見出シテ貴之候上下ヲ分チ礼ヲ準繩ア
ラシム以テ天下ヲシテ從ヒシム 智ハ周末ニ在リテ學者皆天下ノ經
済セシ考ルニ由リテ右ノ自見所見ニ陳シ直枝柄ヲ見サ
ントス故ニ後アリ也モ 独新説ヲ唱ルニ至リ管仲晏子孔
子孟子荀子何レモ自家ノ説ヲ立ツ而シテ皆政治家ヲ以テ主
トス信ハ周以上ニ在リシ而シテ五倫トモ言舞ノ行リニモナリ書
經ニ五典五經ト奉ケルモ 且何リシモノ目ヲ奉ケルニ義ノ五
常ヲ以テ五典ニ解釈モハ周以上ノ「字引」ニ據梯
ハヒテ道徳的ニ解釈モハ宋ニ防見而シテ初メノ字引ト
道徳的ノ解ノ徳アリ居ル所明ナリ 漢代ノ藝文志ノ中ニ五
經ヲ仁義礼智信ニ配ス其ノ「先王愛禮ノ對策」中ニ
モ「周ノ世」以前ニ在リ故ニ「周ノ世」以前ナリ

◎文字史
◎文字ノ創始

史記ノ序ノ外字書三人後漢ノ許慎カ説文ノ序白ノ黃
帝之史蒼頡見蹠鳥獸迹之跡知分理之可相別異
也初造書契ト然任許慎史記ノ原根柢トモモ如
史記ニ曰ノ蒼頡書十五篇李斯作之(秦以下周代飛
六者子ニ作書者衆而蒼頡独傳用一也ト又呂氏春
秋ニ倉頡作書又隨弟子史皇也而能書トアリ然レ周
易ノ擊緯ト上古結繩而始後世聖人易之以書契ト
以下ノ司馬遷曰ノ載籍極博行考於信之難ト凡テ漢
ス知今世トモモ又其判決ヲ夫人ニ經ト向テ本ト欲之レ
モナリ併トナカウ凡テ六經ト信トスニテ孟子モ盡信

書ニ如無書トけ所ノ關係トテ庄ノ如キ古來皆寓言
トシテ撰作シテ我ニ直事実トテ信之レモナリ鬼ノ南今
引用也(擊緯ノ文ニ上古後世ノ字アリ)同ノ擊緯ノ
文ニ易ノ之興也其於中古乎作易者其有妄也乎以所
ら中古ノ文也(其ノ文ニ)擊緯傳ト曰フ上古中
古後世ノ以テ之者ノ人尚ノ明モレテ欲之レ又其後ノ易
之興也者殷之末世周之盛德耶也文王世封之事耶也
至レバ殷周文王封ノ文字ヲ出シタリケレ知レ上古ト五帝
以上ノ事トシテ中古トハ夏殷二代ノ事後世トラ周初ノ事ノ
事トナシ況ニ史記ニ倉頡十五篇ト全ク李斯ノ手
ニテ編纂セシレヤ當テラレシ如ク支那ノ其世所
ノ君主初メテ前代ノ説ヲ存確信スルト同ク(儒ノ傳)成

信う天下ニ布リノ一手級ナドモシキルノ秦ハ其書ヲ儒ノ一挙
ヲ以テ服シモ前代ノ事實ヲ後世ニ傳ヘカクシメリク而シテ
今ハ金額カ書ナク其師亦傳フクハ史記ニ由リニ其家者ハ李
斯録カ八程観ノ位ナリク載セリク此ハ今皆之ヲ存
スル家ニ大ナリト李斯ノ家ト曰ヒ籀ノヲ大篆トイフ
籀ハ周土代宣王ノ史臣ナリ李斯ハ荀卿ノ弟子ナリ然ルハ
則チ或ハ荀卿ノ言ニリニ籀ヲ奉セシモノナリ今周以上ニ於テ
ハ文字製作ノ種別ノ一ニテナリクハ、
籀書(伏羲氏)、
書(神農氏)、
鳥跡書(倉頡)、
篆書(黃帝)、
籀書(周
上)、
籀書(小真金天氏)、
科書(瑞珉)、
隶書(史佚)、
鳥書(文王)、
魚書(武王)、
植書(周ノ婢氏)、
大篆(籀
複篆(同上)、
人書(帝嚳)、
籀書(夏后)、
籀書(夏后)

(務史)、
文書(百氏職ノ所ノ武畧ノ文)、
麒麟(孔子ノ徒)、
轉寫篆(字ノ目馬桓陸)、
蚕書(魯ノ秋胡妻)、
傳信鳥跡
書(六書ノ向)、
以上三上社ニテ秦以下ノ見シモノハ、
小篆
(李斯)、
籀書(程頤)、
懸針(曹書ノ書、
漢書ノ中ノ人)、
八分(土音王次仲、
漢書ノ中ノ人)、
行書(鍾繇、
魏)、
草書(王
羲之、
晉)、
以上三種ノ外細書、
刻符書、
右隸書、
徒隸
書、
篆書、
氣波直時書、
望英書、
金錯書、
上方大篆、
胡、
題書、
偃波書、
蚊脚、
金、
籀篆、
章草、
元白、
篆
者、
既書、
散隸、
龍爪、
虎爪、
鬼書、
類、
ア、
龜氏
具、
實、
李斯、
十家、
程頤ノ隸書、
及籀ノ大家ニ由リ
テ極益増減セリ、
且キニ故ニ周以上ニ於テハ、
異種カ
文字ノ尺、
李斯ノ身、
テ改作セシモノナリ、
籀ノ身、
テ得ルナ

リをけ他外國切し及天竺もアリ天竺は所謂サ
 スクリット、おるまゝ今ノ改文し、以等古代ヨリ、變千
 ニ字形ラ見ル、例、數函、文歌通考、傳古國考古國、
 緯帖、星地編、西情古紀、等、依ル、お、
 以上古来、考通ノ記ナリ、古隨巢子ガ史皇產而能者、我
 モ始テノ記ナリ支那ニテ書ナリ、始メテ、史皇ニ定メ
 リ、史皇ニ黃帝ノ臣、然レ隨巢子ノ記モ全ノ退ク中ニ、古
 ノ書ハ今ノ、眼ヨリシテ之ヲ見ル、實ニ書ニテ、画ナリ、画
 共ニ三致ナリ、ナリ、之ヲ、耶カセ、墨ヲ流ラ、駁セシ
 易ノ虞翻、注ス、後世聖人易之ハ書契者、謂黃帝也、
 又曰、危儀、始中古、則危儀以前、為古、黃帝、竟舜、為
 後世、又且、証、ト、ト、易之、也、於、中、古、乎、所、注、シ、

曰ノ、與、易、者、謂、危、儀、ト、リ、古、人、書、ノ、流、ル、淺、キ、行、ニ、如
 此、モ、ナリ、而、シ、今、日、猶、且、人、ノ、之、ヲ、疑、フ、モ、ナリ、然、レ、ト、キ、至、ラ、
 多、ク、見、テ、支、那、ノ、古、書、ノ、流、ル、ニ、當、リ、テ、白、文、ヲ、繙、ケ
 本、文、ヲ、以、テ、本、文、ヲ、解、シ、經、ノ、以、テ、經、ヲ、注、セ、古、人、ノ、流、ル、
 而、過、義、自、通、ト、為、サ、シ、注、ニ、由、リ、テ、解、ニ、カ、サ、レ、テ、
 セ、シ、モ、ナリ、戒、ム、ン、ト、シ、ヤ、古、文、亦、古、孔、安、國、ノ、序、ニ、曰、ク、古、者
 伏羲、氏、之、王、天、下、也、始、畫、八、卦、也、圖之、之、し、易、ノ、辭、辭、ヲ
 改、作、セ、ル、外、ナ、ク、而、シ、テ、虞、翻、ハ、孔、安、國、ガ、高、書、ノ、序、ヲ、以、テ、
 易、ノ、辭、辭、ヲ、解、釈、セ、テ、解、釈、ニ、テ、易、之、也、也、
 末、世、周、之、盛、德、邪、主、リ、テ、通、セ、由、リ、又、補、ニ、曰、ク、之、伏
 羲、ノ、易、ノ、文主、ノ、易、ノ、字、ノ、陸、象、山、ハ、朱、熹、ヲ、嘲、テ
 曰、ク、六、經、皆、吾、人、心、之、註、脚、ト、今、虞、翻、カ、如、ク、亦、象、ニ、嘲、以、甲

ノ人シテ免ガ嘘、孔要國ハ前漢武帝ノ時ノ人ナリ故ニ後世
多ク之ヲ信ズ然ニ其要今ノ女國ノ序ハ西晋ノ傳作ナリ世業
ニ既ニ定論アリ今敢テ以テ之ヲ疑セズ
其来也色ニ文字ニ著顔ノ作ニテ之ヲ云フ又已ニ文字ハ周代ノ
作ナリト云フ然レバ則テ周代ニ到リテ初メテ文字ヲ作リ
モノ初メカ爲ス之ノ實ニ至斯ノ尚疑ナリ然レバ近來傳ニ所
ニ由リテ且傳序ヲ考ルル中ニ宣王ノ史臣籀ノ云々ナリ
不故ニ我々今先ニ籀ヲ以テ文字創始ノ人トスルニ之ノ同
ニ更ニ見事ニ向テ詔女ニ云々ト云フ曰ノ且人記グ曰ノ人
ナリト云フト云フ曰ノ書籍ノ名ナリ河等ノ書籍グ曰ノ易
ナリ易ノ書曰ノ易ニ文字ヲ創成スモノ、其来ニ所ニ注
解見セシモノト云フ是ナリ法ヲ換テ之ヲ漢ノハ易ニ古代ノ

字引ナリト云フト云フ新注字引(朱子學ヲ奉スル)創目切書
シテ目ニ周礼地官大司徒ノ籀ニ言フヤ外史掌達書者
於四方保子養國子教以六書ト周礼ハ周云ノ作ニ所ナリ
周以上ニ於テ文字ナリト云フ之ヲカ之ヲ作レテ得レ河等ニ
教レシ六書ヲ以テスト云フヲ得レ且ツシ荀子ニ金鼓ノ書ニ人
ニ傳レハト云フニ於テト云フ如ク世ニ傳フテハ昔ニ傳テ之ヲ解
リテ欲セズ抑レ礼共ニ(玉帛展交)皆周初ニト云フ中ニハ呂不
韋ノ作アリ漢ノ文帝ガ博士ヲホアリ朱子ノ教アリ故ニ前
後柰鑿甲乙矛盾有違モ且據レテナリ抑カ初メテ文
字史ノ研究ナリ思ヒ立チタルハ實ニ周礼ヲ流ムル日ニアリナ
リ若夫若卿ノ言ニ立リタル者ト云フ今ノ之ヲ信スルニ非ズ
方學派ノ儒者(沙石ヲ奉スル)或レ曰クシ唯世ノ繫緯ヲ

以テ証拠トモテテ而テ撃辭ハ孔子ノ行テたれり知子ハモ
才之何ノ言ヤ文言撃辭ノ二習其其氣其子夏ハ以テ
「我亦之リ也」ト云ヤ子夏ノ標トシテ氏終殆子曰「文子
多キヲ見シト子夏ハ也」ノ意見ニテハ明ナリ且文章ノ絶辭
文言撃辭ノ如キ事ナリテ絶無トナリテ可ナリ今撃辭ノ
文例ニ由リテ之ヲ見ル後世ハ文学ノ周以下大ニノ意
味ハナリ知ル事ナリ又易ハ徒ニ哲學的世變ノモノナ
リト云フ事ナリ若シ疑ハ暫ク去テ字四卦ニテハ十
四文ニ絶テ一ノ之ヲ且檢セヨ思半ハ過リ也ノ事ナリ且古說
文ノ序ニ亦テ「抑魯ニ結繩為物而結其事」者結繩
後神契ノ之皇画文、彼ノ舍類ノ之皇ノ時一人ナリヤ又
結繩ノ政ハ伏羲以前トナリテハ二說共ニ通也

案ニ此ノ支那ノ文字ハ其初メ一人ノ手ニ成リ也此ハ一部落ニ於テ
之ヲ完成セシメテ各時代ニ於テ各部落ニ於テ各人ノ皆寫的文
字ナリ也故テ前ニ掲ゲル所ハ籀以上ニ於テハ十四種ノ文字ニ其
大數ヲ示セル一ノ如クハ右部書皆其文字即皆異リテ異ニ
ナリ也唯テ右部書ニ對シ最モ力ヲ入ノ族長ハ^自部書ノ
行ハレ、皆其ノ之ヲ右部落ニ行ヒ、^押部書ニ笑ハルカ
アリ、^桑桑葉國ニ改ムル後且其ノ文字ヲ且從也ノ國ニ移
ル七少極人ノ如キ、四少訓ヲ制セル後直ニ自由ニ
法文字ヲ改メテ元人ノ如ク情ノ如ク、指リ置テ論セヨ昔
漢文ヲ學ブテモ可ナリ彼ノ之ヲ我文字ヲ習ハシメテ人情
ノ常ナリト況ニヤ右部落ノ知識其甲乙ナキノ場合ニ於テ
シテ且ヤ文字ノ初メ象形的ナリト云フ事ナリ以テ隨葉子ニ画

劉焯者史皇の文字を解く事とすも之を解くは史皇の文字
ヲ書リつゝ上キニテ多クトテ文字書リつゝ上キト云つゝ
其画ヲ描リつゝ上キニテ多クトテ文字書リつゝ上キト云つゝ
此不成立の別流の文字の數ハ百千種アリシヤ
弱ト想像ノ及ブ新ナルモノハ唯世代變るハ其文字
ノ新シキモノハ各世代ノ主君ハモ同一ノ部族ニ起
ラセバ

孔子が夏礼吾既言之。杞不足徵也。
礼者泮言之。宋不足徵也。又獻不足徵也。是則吾能坐
之也ト嘆息セルモ其世代之初於前代ノ文字ヲ革
新スル一途ヲ窺フキテ又其他中庸ノ車回軌書同文
西史記ノ李斯傳ノ同文書ハ一斯皆有カ馬ノ文字

アリ故ト抑シテ今ノ隋代ト云モ猶又文字革新ノ意
ヲ存シ前朝其後ノ文字ヲ行フコト恥辱トスモ如シ此ヲ
魏六朝皆字形ヲ異ニシ唐ハ則天武后ノ新字ヲ宋ハ楷書
様ニ改メ元亦其初メニ新字ヲ布カトセリ明亦字風ヲ改メ
今ノ明モ亦明ノ字風ヲ改メ宋字ノ様ヲ改メ一世人明字
清朝字トイフモ是ナリ文字ノ變遷ハ見セバ只猶其
様ヲ改メ前代其後ノ風ヲ變遷スルヲ爲サズ
孔子之前ハ古史ノ在セルモノ亦サカサレシ故ト云フ
既ニ孔子ノ嘆息アリ又左傳昭之十二年楚左史倚相能
之墳五典八索九丘トアリ之墳ハ之皇ノ史ナリ五典ハ五帝
ノ書八索八卦ノ書其索トイフモノ八索メテ得ルノ意ヲ
云フ九丘ハ九州ノ誌ナリ倚相が這般ノ古書ヲ流シ

得たる八季ノ二世ノ侍士清角ノ伏務カ書經中ノ二十余篇
ヲ流シ得たりトモ感困難ク秘メ見ルニ
要之優勝方敗ハ世ノ常、文字モ亦然ル下ノ方来ノ帝王
ハ世代ノ知カシテ之ヲ筆新元ニ其感カシカラセテ人
存シテ後世ニ至ル下ノ方来ノ則八卦之ナリ(八卦ニ四種アリ
伏羲ノ八卦運カシ八卦、歸藏ノ八卦、文王ノ八卦之ナリ)至
八卦ハ 乾三、天ヲ表ス、乾卦ニ属スルニ之アリ、艮三、
巽三、山ヲ表ス、離三、火ヲ表ス、巽三、
風ヲ表ス、坤三、地ヲ表ス、坤卦ニ属スルニ之アリ、
兌三、澤ヲ表ス、震三、雷ヲ表ス、
坎三、水ヲ表ス、
以上ノ八卦トイフ之ヲ重テテ更ニ五十六卦ヲ得、今ニテ

六十四卦ハ纏テリ之ヲ以テ周代ノ八卦トイフモノハ其実ニ十四卦
ヲ兼テテイフナリ故ニ周礼ニ其經卦皆ハ其別皆六十四ト
イフ者別是ナリ然ルニ帝王世記ニ庖犧氏作八卦神農氏
重之爲六十四卦、黃帝堯舜引而伸之、分爲二易ト
ス、爲メテ後儒皆之ニ從テ伏羲ノ作ルニハ單ニ八
卦トシテ六十四卦トイフニシテ今一步ヲ濫リ、周礼ノ以
テ信スルカニサレト爲ス、此等ノ辭ヲ引ケバ、以單ノ如キニ
一踏ニ作ルモノナリ
剛柔相磨ハ卦相協、四象ト八卦、八卦定吉凶、八卦成
列、象在其中、如作八卦以通神明之德、繫辭ノ例
六十四卦トイフモノナリ皆之ヲ八卦トイフ然レバ周易ハ六十四
卦ニシテ、其ノ中ニテ單ニ八卦トイフカ人皆六十四卦トイフ知

リ柳庵相盤成列守ノ文字ヲ見ル經九八卦奉々續
ル他ノ字四卦ヲ推スヲ知ム而シテ八卦ハ四象ヲ成ル
冬二北、秋二西、春二東、夏二南、而シテ四象兩儀
ヲ成ル天一陽、地一陰、故ニ字四卦ノ文數凡テ百
八十四皆此ニ支ラウ出ヅ世ノ南明ニ隨ヒ事物極多ニ申ラテ皆
号ノ不足ヲ感スル中ハ更ニ字四卦ヲ延伸シテ以テ千卦ナ
シ方卦トナシテ之ニ應スヘキナリ
八卦ニ支ラウ成リ字四卦ニ支ラウ重復ヲ成ル何故ニ支
ラウテ他^卦基本ト定ナニ支者^一支ヲ以テセリトヤラシ
ニ支那哲學ノ範圍ニ属スルテ今之ニ支ラウ後カズ
次ニ八卦ノ文字ノ根原ナリト云ヒテ^{擊辭}「古者包犧
氏之王天下也、仰則觀象於天、俯則觀德於地、觀鳥

獸之文與地之宜、近取諸身、遠取諸物、於是作八卦以通
神明之德、以類万物之情、觀象於天、トイヒ觀法於天
トイヒ鳥獸之文與地之宜トイヒ皆之ニ當リト象形ノ文字
ナリト云ヒノ意味ヲ含蓄スルヤ以テ通神明、以類万物之
情トイフニ至リテ人亦八卦ヲ以テ文字ノ一トイフモナカ
シ然レバ古代ノ書トシテ一符号^一ニシテ數義ヲ具スル子
含マラシ得ス今若シテ^{三三三三三三三三}ノ如キハ符号^一ニシテ
數據若クハ一冊ノモリニシテト假定セテ讀者唯自レノ新判
ニヨリテ解得シ事奉情^一ヲ^一事^一記^一事^一ナリト爲スノ^一古^一代^一
アリテ事物ノ^一符^一号^一且^一符^一号^一ノ^一事^一ヲ^一示^一スル^一レ^一況^一ヤ
世^一代^一從^一テ^一進^一ム^一人^一知^一從^一テ^一向^一ク^一ル^一中^一ニ^一於^一テ^一ヤ^一古^一書^一符^一号^一
方^一ニ^一至^一朝^一ノ^一大^一事^一業^一ナリト^一疑^一ナ^一レ^一故^一ニ^一上^一神^一書^一黃^一帝^一

下夏殷ニ至ルニテ皆其部族ノ語ヲ文ラシテ各之ヲ注解シ付
シ見モノ如シ文王ニ至リテモ亦此語文ラシテ注解セシム
然レ周ニ至リ初メ易ノチテ四卦ニ至ル今四文ヲ以テ夏
本トシ之ニ至リテ又子ヲ製シテ已ル形ヲ改メテ文字
トナシ是ニ於テカ一字ニ一意ノ外ニテ合ッテ用テ
然レ世ヲ益進シ又益不足ヲ感シテ是ニ於テ
カ更ニ新字ヲ製シテカ近來ノ又字ニ更ニ一意ヲ兼テ
シムカト云フニ至リ故ニ今ノ動詞ニシテ製字ノ始メ
名同トリシ者多キヲ見シ所ナリ而シテ製字者ハ
易ニ依リテ製セシ事ヲ明言セズ孔子ハ製字者ノ
一文字ノ出所ヲ明カスニ製字者ノ文字ヲ以テシテ而シ
テ散テ製字者ノ又字ノ出所ヲ明カセリト云フベク

以テ人邊ニ文字ノ出所ヲ知シ事ナリ孔子ハ易ノ注
解ハ其莫古書ノ字引ヲ依リシムルヲ知ル事ナリ
ニ至リシナリ
易ハ古書ノ字引ナシ凡古書ハ上未ダ所ノ如キ
一符モシテ多クハ數十ノ意ヲ合カ田セシメサレ
カラズ故ニチテ四卦ヲ以テ万象ヲ網羅シ万理ヲ
蘊含スト云フ事ヲ得ル也又天下至貴至重ノ
具シテアラスヤ而シテ今ノ文又又之ヲ以テシ
シハ今ノ文又又之ヲ以テシ今ノ文又又之ヲ以テシ
ヲ以テ古代ノ字者文字ノ事神ノ如シ其辭
ヲ施テ今日ノ及ビ一片ノ白紙地ニ委シテ見テ
人ニテ顔ニ漢ニテ而シテ之ヲ拾フ紙虎ノ貴キ

こころを文と學の學をいふなり事以て(ヨニ)屬之ト也
氏其原易の聲をいふる不知識ノ同ノ於テ
漿之感深し居し心なり今ノ文字ノ中ニ六八卦ノ
マ、之ヲ宣つてし者アリ(註)卦三ノ如キハ大ヲ意味ス
トイフヨリトテ正シク今ノ火ノ字トモイフ文ノ篇文ニ
火トモイフハ此ノ字トモ豈別卦ヲ經ニせんモノナラズ
又坎卦三ノ如キモ水ノ意味ニトイフヨリトテ止
ク今ノ水ノ字トモイフ水ノ篇文ニ出トモイフ是レ
則川峯坎卦ヲ經ニせんモノナラズヤ且他易ノ一
天ヲ表シ奇ヲ表シ陽ヲ表スルカ如キ一ノ地ヲ表シ
偶ヲ表シ陰ヲ表スルカ如キ一始一合ノ單純ニ
誠ニケル如キモノナリトテ一ノ乾トテ三

ヲ以テ坤トテ(三)連ノ義今言ニ(會)意ナリ又
ニ陰ノ下ノ一陽アリモノヲ以テ三震ヲ表スルカ如キ正
ニ之レ雷ヲ知んテ得且他先三巽三艮三
如キ皆形ニ象ナリ
又擊辭ノ例ヲ舉シ一符号數義ヲ兼子元ノ時
ヲ以テ文字トハ見做ラズ一符号一意トナリトテ
初メテ始メテ文字ト見做セシモノ、如シ然レ疑フテ尚
且ツ疑フヘキハ篇カ別文字ノ果シテ易ノ卦ニ依リ
シルカ但シ又從來ノ語文同様ノモノナリシカ且十
リモシ篇文ヲ以テ語ノ文同様ノモノトハ之ノ中ハ
其トハ易ノ一ノ文ナリ製セシモノハ周ノ
ラズテ之ニ充テテハ(擊)辭

後世聖人。代之以文字トリニテ其記
テハ明言セズ而シテ稽古トシテ列
人トスルモノ未ダ有ラズ之アリ
ク依リシモノハ周人ナリト云フ
公ノ高ク名ヲ著クフコトハ
此ノ余ト云フ中。古。殷。周。文。王。對。文。子。ヲ。出。ス。ん
モ。ハ。少。人。ヲ。シ。テ。製。字。者。ノ。周。云。夫。丁。子。一。識
印。契。セ。シ。ク。ル。モ。ノ。ニ。テ。ハ。キ。カ。我。ハ。書。ノ。古。書。ハ
據。リ。テ。古。書。ノ。記。之。シ。テ。何。カ。ハ。快。事。ト。ナ。リ
古。書。ニ。テ。キ。所。リ。以。テ。古。書。ヲ。破。ル。カ。如。キ。其。喜。ハ。シ。カ
ズ。婆。氏。今。此。文。ノ。如。キ。後。世。ノ。文。字。ヲ。置。テ。周。人
ヲ。示。シ。聖。人。ノ。文。字。ヲ。置。テ。周。人。ノ。文。字。ト。シ。テ。記。ス。ル。コ

情ニシテ人ニ於テハ。文。法。上。ニ。於。テ。モ。更。ニ。快。然。云。フ。カ。キ
ル。妙。味。ハ。人。實。之。之。昔。カ。考。ル。シ。文。字。史。ヲ。講。ズ。ル。毎。シ
聊。カ。聴。者。參。考。ニ。供。セ。ル。コ。ト。ヲ。乞。フ。所。以。ナリ

○文字ハ造字ノ創始及書ノ名。文。

文字ハ二字ノ造字ノ秦ニ如シ。如シ。史記ノ卷
械一。書。曰。文字トアリ之。如。皇。ノ。九。年。一。御。瑯。石
刻。ノ。文。中。自。見。之。所。ナ。リ。顔。在。武。也。所。以。シ。テ。文。字。ハ。二
字。ヲ。造。ル。如。メ。ト。ナ。リ。今。之。近。ク。單。ニ。文。字。ト。云。フ。ハ
其。向。夏。区。別。ナ。リ。如。リ。周。七。氏。說。文。ニ。錯。畫。ナ。リ。ト
ア。ノ。錯。畫。ハ。鄭。志。ガ。記。ノ。注。ニ。文。畫。也。ト。是。シ。皆。文
ノ。本。我。下。錯。畫。ト。ハ。縱。橫。ニ。交。錯。ス。ル。也。画。紋。ト。イ。フ
我。畫。ハ。筆。ヲ。モ。テ。事。物。ヲ。寫。シ。文。亦。筆。モ。テ。事。物

文字スヨリ画紋ノ紋ヲ轉シテ文字ノ義ニ用ヒテリ
字ノ字ハ既文ノ乳也ト云ク母ガ子ヲ成育スル意ナ
リ是字ノ字ノ本義子トイフ字ノ上ニハノ字アリ(内子
ノ字)ハハ別及ノ義(家ハ人モ同シ又人ハ家ヲ持ツモ
人ハ家ヲ養フ程ノモノナリトシテ)家ノ下ニテ子ヲ生シ
育テ人トイフ意ナリ巳ニ子ヲ生クトイフ直子ハ孫ヲ生シ
孫ハ弟孫ヲ生シ弟孫ヲ生ム之我前章
ニ兩儀四象ヲ生シ四象ハ八卦ヲ生シ八卦ハ二十四卦
ヲ生セルモノニシテ世ノ進ムニ從テ皆是ノモ段々ニ隨ハテ
卦ヲナシ方卦ヲ生シトイフヲ生セルモノ如シ秦以前單ニ文
トイヒ書トイヒ名トイヒトイフ時代ノ前後ニ由リテ異ナリトシテ秦以後
ハ皆通シテ之ヲ用フ今秦以前ニ於テハ沿革ヲ異クテ之ハ

周初ハ文字ヲ稱シテ名ト云ク儀礼ノ暇禮ニ而名ニ上書於策
ト云鄭玄ノ注ニ「名書也今謂之文」マメ賈彦公ガ疏ニ「名者即今
之文字也」又周礼ノ春官ノ外史掌「達書名於四方」ト云鄭
玄ノ注ニ「古曰名今日字」ト云又「同書於官」ト云「大行人
讀書名」ト云鄭玄ノ注ニ「書名書之字也古曰名今日字」之其
一「書」ト云以上ニ例ニ周初ノ記事ハ「名書」又古法ニ據ルモノトシ
次ニ「文」ト云ク例ニ「滂語」ニ「吾猶及史之闕文也」ト云「包咸カ注
ニ「曰」古之史於書字有疑則闕之以待知者也」ト云「左傳」ニ「於
文又正爲之」中庸ニ「今天下車同軌書同文」孟子ニ「不以文害
字」次ニ「書」ト云ク例ニ「儀礼」ニ「史讀書受書執書」等ノ語アリ又周
礼ニ「史讀書契」ト云ク見ク其例ナリ「直名」ト云ク例ニ「何」ノ説文ニ
「名自命也」口从ノ人々者冥不相見故以口自名ト云ク又六書故ニ「白
ノ周書中夏敷夏金以并軍之夜事」莫夜則旌旗徵識

不可并故也。漢字名以相壹。名之文所以从名。之し蓋し周初制
字ノ片ニ名ナリ名詞多ク所以ナリ其唯名詞多ク故ニ文字ト云ハ
ムニテ名ト云フ又異ナリス又世ノ學者皆云フ文字ノ方全至是ノ地ニ達セシ
ノ意ノ虞夏ノ時ナリニ典ニ讀ラ見テ知ルコト今周ハ夏ヲ去
テ有餘年ナルニテ何ヲ考テ其周礼儀ニ於テ由来ノ文字ヲ製
スルカ抑モ又他ニ變更スルカ如ク感セトモ力鳴呼不通ノ論ナリ
ノ干ナリ直書ト稱スル何ゾ後文ニ書キ作シテ隸者依書トナリ
事ハ楚ノ方言ニシテ筆ノ意味ナリ(筆ニ秦ノ方言ナリトモ秦天下ヲ得
又古人テノ文字ヲ改メテ以テ遂ニ今日ノ人其方言ナリ知ラズニ至リ
異ニテ人ナ律トナリ)者ハ儒者學者匠者ト云フ片ニ用ルモノト同じ
ク言テ即書ハ筆者ニ兼テ一變シテ記録ノ義トナリ用變又此ノ
文字ノ義トナリ

終ニ臨テ一言ニキナリ支那文字ノ組織ハ一筆ナリシニ文字ナリ
モナリ又ニ筆ナリ以上ノ字ナリ一文字ナリ一筆ナリ一筆ナリ
ヨリ成ルヲ文ト云ヒ二筆ナリト云ヒ可ルヲ字ト謂ヒ之ナリ許
慎曰ク獨文爲文合文爲字文也世字也子也

六書

文字學者古来ノ傳説ニミテ文字ヲ研究セト故ニルモノ也六書
ニ依ラズルカニト謂フ然ルニ六書ノ目ニミテ學者各異同アリ支
那ノ文字史ヲ修メシト故ニモノハ一應之ヲ知ラズルカニ否決シテ
之ヲ外ニシテ他ニ方法ナキナリ
六書ニ文字ニ周礼地官大司徒ノ屬ニ保氏養國子教以六書
トナラフ以テ初トナシ然レニ六書ト何ヲ謂フニ至リ又之ヲ述
鄭玄之ニ注シテ象形、指事、會意、諧聲、假借、轉注ノ六ト
ナリ直他劉歆班固モ亦之ヲ言フ降テ許慎ニ至リ加テ以上
六書ノ解釈ヲナセリ其後陰錫(右康人)毛萇、此有、鄭、推、京

人、載侗、周作奇、(元)人、趙古則、王應電、(明)人、段玉裁、孫星衍、江永、戴震、許宗彦、(清)人、(一)等アリテ、各異派ヲ異ニシ、抑モ六書ニ文字ハ、周礼ニ之アリシモ、漢代ニ至リテ、スノ、且、目ウケ、フモノナカリシ、甚メ疑フキヤリ、周礼ノ所謂六書ニシテ、果シテ、文字學者ガ所謂六書ニカ、但、又、別ニ、文字ノアリシカホリ、知ルカ、或ハ、今、周礼直物ニ後世ノ傳撰、コトヲサレナキカ、奥ノ角ニ六書ノ目ハ、極メテ、精確ニ撰ミタリ、今、方、有、余、ノ、文字、皆、異ニシ、六書ニ據リ、分、類、ス、ル、偏、ル、シ、モ、ナ、リ、試、シ、テ、短、極、テ、入、リ、易、キ、法、方、リ、設、テ、之、ヲ、況、カ、ル、第、家、形、カ、ニ、極、事、ニ、テ、一、者、ハ、計、測、一、百、も、ス、テ、一、字、ヲ、ナ、ス、シ、テ、計、測、カ、所、謂、文、ト、モ、ナ、リ、カ、レ、今、意、カ、四、深、声、以、上、ノ、二、者、ニ、若、ク、テ、上、相、案、リ、テ、一、字、ヲ、ナ、ス、モノ、許、慎、ノ、所、謂、字、ト、モ、ナ、リ、カ、五、段、借、カ、六、轉、注、以、上、ノ、二、者、カ、一、リ、カ、四、ニ、至、ル、所、謂、文、ト、字、ト、ノ、使用、法、ヲ、明、カ、シ、モ、ナ、リ、之、ハ、豈、制、字、者、ガ、其、制、字、ノ、始、ナ、リ、テ、其、ノ、物、以、テ、家、形、ト、シ、其、ノ、事、以、テ、指、事、ノ、部、ニ、置、キ、其、ノ、合、意、其、ノ、音、聲、勿、レ、若、ク、シ、如、ク、指、カ、合、ハ、斯、リ、反、借、シ、斯、ノ、如、ク、時、カ、ハ、斯、リ、轉、注、ス、コ、ト、先、テ、心、解、理、ニ、定、メ、テ、之、後、一、ク、手、臨、シ、テ、之、ヲ、見、セ、ル、モノ、ナ、リ、ト、ヤ、正、シ、レ、後、世、ノ、字、者、ガ、文字、研究、ノ、為、メ、多、般、苦、心、ノ、結、果、ヲ、ナ、シ、テ、其、カ、合、意、履、積、ヲ、テ、之、ヲ、照、シ、モ、歷、史、眼、ヲ、テ、之、ヲ、穿、テ、モ、如、ク、字、向、ノ、周、代、ノ、於、テ、起、ル、キ、而、隙、ハ、決、シ、テ、毫、モ、之、ヲ、ナ、キ、リ、テ、知、ル、漢、代、ノ、字、者、ガ、始、メ、テ、如何、ト、シ、ハ、歷、史、上、如、ク、事、業、ハ、何、ヨ、リ、必要、ニ、直、ニ、居、ル、ハ、且、試、シ、思、ハ、爾、雅、ハ、周、代、ノ、字、別、ニ、テ、ス、キ、周、代、ノ、於、テ、肉、介、ノ、字、リ、ク、作、シ、モ、何、ク、苦、シ、ク、周、礼、ヨ、リ、六、書、ノ、目、ニ、從、テ、一、ク、之、ヲ、解、釈、セ、リ、シ、テ、周、礼、ガ、周、代、ノ、作、ル、モノ、ナ、リ、ト、知、ル、至、リ、テ、自、カ、ラ、明、カ、シ、(之、ハ、周、礼、ガ、周、代、ノ、作、ル、モノ、ナ、リ、ト、知、ル、ト、同、キ、ト、ス、) 且、他、於、疑、ス、キ、モノ、一、ニ、シ、テ、足、リ、カ、ナ、リ、ト、例、本、文、ノ、条、下、ニ、述、ス、

曰柳カ之ヲ述ニシ次ニ六書ノ梗概ヲ復カシニ

第ニ象形トハ又字ノ系々如ク物体ニ就テ直ニ其形ヲ模倣シ
之ニ類似セシテ云フ所也ハ木(木)且(鳥)馬(馬)不
(豕)封(齒)人(人)大(大)尺(人)ノ如キ然リ
昂(木)ノ字如キハノハ根チ下ノハ根チ而シテ之ヲ貫
穿シテ上ニ下ニ至ルモノハ幹ナリ以下ノ鳥馬豕象ノ如キ皆
此ニテハ上ニ下ニ至ルモノハ今ノ大ノ字ナリ反制字ノ始メテ
人字ナリトシ後世天ノ字ハ所以地ノ地ノ所以皆道ナリ
而シテ人ノ字ハ所以示道ナリト云フヨリ人ノ字ニ取テ
以テ天地道ノ三者ニ配シ四大ノ説起ル(四大ノ後ハ老子
ノ以テ)又テ大ノ字ヲ以テ人ノ字トナシテ廢シタリ
尺昂人字ノ二尊ヲ行ルルコトナリ

第二指事 某ノ事ヲ示ス之ヲ指事ト云フ象形ノ一層

進ムル制字ナリ故ニ井(井)又從之ヲ知ニ於テ誤
リ昂キテ多シ例セハ一二三三十二(上)二(下)ノ如キ一
シテ之ヲ知ルヲ得後世二(上ノ字)ノ字ヲ數字ノ二下浪シ
昂キテ今ノ上下ノ字トナセリ

第ニ會意トハ二字ヲ集メテ一ノ意味ヲ示シ其
味ヲ以テ事物ヲ代表セル所也ハ(信)里(里)人(人)
田(田)五(五)看(看)ノ如キ昂之ナリ信字ハ古代ハ
人偏ニ口ノ字ヲ書キテ人ニ向テ口ヲ開キ約束スル
以テ其言ノ違フ様ニスル故ニ人ロラ合シテ信ノ字ヲ作
リ約束ヲ失フ意味ニ用シテトナリ後人仰ニ言字
ノ道ノ又同意ナリ又里字ノ如キ田土ノ二子ナリ凡ソ

お甲しん人ノ居住る地ニ穀物ノ作ルキ田ト家宅ヲ置
クキ土トガ如用テ下トスルコト田上ノニ字ノ字トシテ
ラ依ノ民居ノ義ニ用テ字トシテ字トシテ家ノ下ノ女ヲ書キ
字ニテ田ニカク用テ思フコトトスルコト田上ノ字ヲ制シ
ク人ノ遠方ヲ見ルコトノ目上ニ野ノ字トシテ自光ヲ散
コトトスルコトトスルコトトスルコトトスルコトトスル
十字折半ノ意味ヲ以テ五トスルコトトスルコトトスル
ノ一川川正ニ指字ノ属スルコトトスルコトトスル
字ニ依リテVニテ如クモノラハテ六トシテニテハ川
トシテ川ヲ加ヘテ八トシテXトシテ一トシテXトシテ
如キ皆今意トスルコトトスルコトトスルコトトスル
テ字トシテIVVVI VII VIII IXトシテ字トシテ直Vラ
テ字トシテ

字子ト云新以ハX字ヲ折半セルモトトスル然ハXノ字
ノ下折半ハAニ似ルコトトスラ故コトトス折半ヲ取リ
ト知コトトスルコトトスルコトトスルコトトスル
テ置テ十字折半ノ意味セルモトトスル
荒四諧声深トシテ論トシ合テ諧声セルコトトスル
ヲ集メテ所ニ會意ト目トシ唯其異トシ一半ヲ以テ意
味ヲホシ一半ヲ以テ音声ヲ合シテ一トスル一字ヲ以テ
ト見ニ他ノ一字ヲ以テ事物ノ待物ヲ見ニシテモトスル
モ江鳩桂栢梧芳ノ如キ皆然リトスル一水トシ直右
ヲ以テトスル依テ散水ヲ以テ水トスルトシ一ノ字ヲ
以テ其音ヲ示スル鳥アリ常ト其音トヤ(引)トスル
鳩字ヲ制シ桂栢梧ノ如キ直モトトスル本見テホカガ

ニ木偏ノ付し圭而吾ハ皆直音ヲ示スニモ此キ之於方字ノ如
キモ亦然リ音モ入草ニ何リトモノアリ依テ草冠
ヲ以テ生其草ニ示シ次ニ方字ハ其音ヲ示スニ過ラズ
以上ノ四者ハ實支那文字ノ成方ヲ考テ又偏スルニ然
レモ時ニ或ハ意外ノ變例ニ遭フアリ例若年ノ字ノ
如キハモト牛ノ鳴声ヲ表せん今牛ノ字ノ上ニムヲ
加ヘタリ牛ハ牛ノ形ニ象リ之ニ附加スルムノ形ヲ以テス
ムハ音ノカヘリ也ハナラシク之ヲ以テ牛ノ鳴声ヲ見シタ
リ然レ牛ハ成字ナラムニ未成字ナリ又未成字ノ上ニ合ニシ
一字ヲ成シモノアリ西ノ字ノ如キ亦之ナリ西ノ字ハ權
文ニハ固ニ依リリニ鳥ノ形トシテ鳥ノ巢ニ象リ
タリ鳥ト鳥ノ巢ヲ合シテ何故ニ東西ノ西ノ音モ

用スルヤト云フハ大陽ノ將ニ入リト云フヤ鳥ハ各皆其巢ニ居
ルニモウツリ轉シテ用スルアリ後世指書ニテテ變シテトシ
トテ變シテ曲トナシトモ終ニ轉スルカナルニ未成字
ト成ルニテ又此形ノ字ハ成方ナラズ文字ノ畫ニ有テハ
一字ヲモノアリ且クノ字ナリ之ハ鳥ノ字ナリ鳥ノ巢
クニテ目ノ見難キニ月ノ一畫ヲ有テリ又メト云
ノ字ハ月ニ一畫ハ足ナリ鳥ナク方ハ月が出ル所ノ
其聲ハ一部分ナラズ意味又一字ノ形ヲ逐ニ書シ
テ字トナシモノアリ司ノ字ハ后ノ字ナリ逐ニシテハ例
后ハ族長也書キ意ニシテ上アテ命令ヲ出スモノ同ハ
百也有司ノ可シテ后ノ及対下ニテ后ノ命令ヲ
奉スルニ意其也且ク及対ナラズ五ノ字トナ

し又、テ、ウ、右、年、ヲ、示、し、と、シ、テ、ウ、テ、左、年、ヲ、表、さ、し、が、如、キ
イ、テ、ウ、テ、左、ノ、股、ヲ、示、し、テ、ウ、テ、右、ノ、股、ヲ、示、し、出、ラ、フ、テ、左、ノ
足、ヲ、示、し、出、ラ、フ、テ、右、ノ、足、ヲ、示、し、左、右、ノ、足、一、豆、一、豆、其、形、屹、然、ト
シ、テ、高、シ、今、ノ、高、林、ノ、上、ニ、ア、ル、ヲ、以、テ、豐、ノ、意、味、ヲ、示、せ、し、カ、如、キ
皆、其、例、ナリ

又、命、意、ノ、中、ニ、其、字、畫、ヲ、有、し、ん、爲、メ、シ、殆、ト、知、し、カ、ラ、ズ、モ、
子、ノ、孝、ノ、字、ノ、如、キ、老、ノ、下、ニ、子、ヲ、畫、キ、子、ノ、老、人、ノ、仕、ル、意、
ヲ、畫、キ、と、氏、今、ノ、老、ノ、半、分、ヲ、有、セ、リ
亦、五、假、借、任、借、ノ、解、前、ノ、四、者、ニ、比、ス、ル、諸、家、異、
同、多、シ、然、ル、管子、稱、ス、五、方、之、民、其、声、清、濁、高、下、各、
象、川、泉、壤、淺、深、廣、狹、而、生、之、鄭、庚、成、曰、倉、卒、
與、字、以、音、數、一、比、方、假、借、者、也、朱、棣、國、曰、文、章、家、

多、漢、字、法、韻、効、曰、同、先、太、甚、曰、郵、甚、新、婦、曰、新、負、異、
曰、異、須、臾、曰、須、臾、陸、德、明、曰、吳、楚、則、傷、輕、決、燕、
孰、則、傷、重、秦、際、則、上、声、有、入、梁、益、則、平、声、似、去、
之、ノ、諸、說、一、比、其、類、考、ノ、人、二、彼、其、邦、土、ノ、廣、
一、同、一、者、モ、處、カ、ク、之、ヲ、并、ム、カ、ラ、ス、清、ト、モ、或、ハ、濁、音、ノ、入、声、
モ、或、ハ、上、声、ノ、同、ス、一、ニ、シ、テ、足、ラ、ス、其、川、泉、壤、ノ、地、ニ、
住、セ、ん、モ、ノ、山、岳、高、來、ノ、地、ニ、居、ん、モ、其、こ、ノ、声、ト、異、ニ、ん、ト、
リ、鴻、ノ、其、声、多、ク、ノ、鼻、音、ニ、屬、シ、官、雪、在、ノ、其、声、極、メ、テ、
清、朗、ト、一、ニ、鼻、高、乾、濕、ノ、差、ニ、因、リ、ス、ハ、ア、ラ、ズ、人、モ、亦、然、リ、
我、國、ニ、在、テ、モ、白、川、近、傍、及、下、城、後、ノ、如、キ、濕、鼻、ノ、地、
住、ス、ル、モ、ノ、鼻、音、極、メ、テ、多、ク、来、ル、ノ、鼻、音、殆、人、ノ、笑、ム、
所、ト、ス、フ、已、ニ、如、キ、声、音、ノ、清、濁、高、下、ノ、管子、稱、ス、凡、所

ノ如ク若直川魚泉樓及土地ノ浅深廣狹、因リテ生シ
イモハ人ノ言法ヲ聞テ思カニ辨ス方ウカシ、如クヤレバ
シノ知ル字音ヲ以テ之ヲ符号トナシ、カクシク之レ
ノ起ル一大原因ナリ

次ニ又鄭康成カ所謂倉卒僂隸ガ其無文也ガ為メ、
已レノ知ル字音ヲ以テ他人ノ言法ヲ記ス之シ又、如ク有ノ
事ナラシ

朱植國ガ文章家好テ僂隸ヲナストシ、フニ至ラモ之シ亦、
ナリ(予嘗テ明治十五年ノ交清國、今使何如璋ヲ訪ル
傍ラ、目下部鳴鶴氏アリ) 以時古メヲ長ク筆ヲ以テ
事ヲ記ス然レモ我ト鳴鶴氏ノ間ニ在テハ、活ハ筆ヲ記
ノ迂ヲ字子フハ、勿論ナサリシナリ、名時所如、皆、日本、

シ、フ巴ニ久シク積日活ヲ解ス、然リ、吾輩兩人ノ活活ヲ聞
カント、欲スルモノ、如シ時ニ或、急ニ「ゴトシク」ノ活ヲ以テ、音
非、兩人ノ活活ヲ止メ、ト欲スルモノ、如シ我依テ之ヲ目下
部氏、質ス目下部氏知ラズ、以テ何氏、轉質ス何氏
書シテ曰ク、不東ト兩人更ニ違フ、何氏又書シテ曰ク、不
解了ト、トケ、於テ始テ知ル東ノ字、通ノ字、其ニ一、
ル、フ即不東ト、不通ナリ、宜下哉、我輩、在テモ、
ゴトシナリ、ト

故ニ僂隸ト、之ヲ約言ス、ハ、同音ノ文字ヲ僂隸ナリ
テ、已レノ思フ所ノ意、我ヲ以テ之ニ、宿宅セ、ン、云、フ、
也、氏、之、別、ニ、ト、ス、フ、得、カ、一、文字、ナ、ク、シ、テ、僂、隸、
ニ、文字、アリ、モ、僂、隸、ニ、モ、カ、一、文字、ナ、ク、シ、テ、
僂、隸、ナリ、

毛くハ新事物新言語ニ於テ特別ニ文字ヲ制介スルコ
テ其新事物新言語ト曰キテ文字ヲ仮リ来ルナリ例
セ人其馬何馬勿而笑斯然ノ如キ皆然リ其今
ノ筆ノ字ナリ竹ヲ編ニシ依リタル器ニテモ此ト云フ例モ
何モナシ然レバ字ノ音ヲキトシ又之此ト云フ場合ニ
用ニシテ音モサトシテ又借セんとナリ馬ノ古ノ馬ノ字
ナリ音モ又助法用之テ其及人ナリ遂ニ之ヲ借
シ今ノ又其ノ字ノ訓ニみ馬ノ字ノ訓ニ云ハト云フア
ルヲ知ルナリ到シリ何ノ字ニ今ノ赫ノ字ナリに云ハト云フ
訓ナリ云ハト云フハ其音ヲカト云フナリ遂ニ之ヲ借
リテ爲ノ字ニ母猴ト云フ字ナリ而ハ面毛ナリ笑ハ矢猴ナリ
財ハ析ナリ待經ニモ斧以斯之トナリ然レバ燦ノ意味ナリ

勿ニ訓里ノ獲ナリ

後世里和ノ言法ヲ翻訳スルニ於テ適切ニ意澤ス
ハカク人モ之又無任備中ニ入ルモトス例トハ支那ナ
佛書ヲ訳スルハ後彌山ノ師釋多羅之類ニ其書ニ
如キ書モ文字ニ關係ナキモノ由南ノ之ヲ南ノ文ニ
氏ニ訓ナリ第一文字ナリ又借セんとシ同者ナリ
ニ制ノ文字ニ云テ制ノ文字ニ借セんとシ其意義ノ
固ヨリ違ハル又同ナリ例トハ一二ニ十ノ義ナリ
類トハ一二ニ十ノ音ノ借シテ壹郎參拾ト云フ
如キ古ノハハト云フ字ニ邊ニテ其音ヲ同ト云フ
又ハト云フ字モ其音ヲゲト云フナリ邊ノ所ニ
原ノ用ニ至リテ邊ノ字ニ廢シ然レバ今度ハ同ナ

モトトミの字の失つ故に余は水戸の附したる漢字に依り之を先ツ鮮字にモト魚ノ名ナリカクシトミ字ニ鮮ノ字アリ之亦音別ニ遂ニ鮮シテ鮮ニ代スリシリ又アザカシトミ字ニ魚鱗ノ字アリ又音ナリセシトミ依ラ又鮮ノ字ヲ魚ノ字ノ形合ニモ仮借シテ魚鱗ノ字今ハ全ク本元ニ至リ凡ソ支那ノ書籍ヲ讀ミテハ同音仮借ハ如ク知ラレハカクサス

張良が始皇ヲ博浪沙ニ狙撃スルト云フアリ狙撃トハ曉ヒ打ツレト云フ義ナリ通鑑ノ胡ニ有リ註ス狙ハ獵ノ屬ナリハ獸ハ俯シテ物ヲ窺フモノ故人ハ胡トウツハニ其様甚似スルヲ狙撃ト云フアリ今案

ズル狙獵ノ屬ナリ然レ狙ハ俯シテ窺フモノナリハ胡ニ有リカ一モノ説ナリ胡フト云フハ觀ノ字アリ觀撃ト書クキテ狙撃ト云フハ其実同音仮借ニ過キズ又狼狙ト云フテハ普通ノ説ス狙ハ狼ノ屬ニテ一足カ不足ニテ他ノ獸ノ様ニ連リテ歩シ能ハズ故ニ常ニ狼ニ連リテ行クモノナリ若シ息家ノ事ナリ狙ノ居ラズハハ大ニコヅクナリ狙狙ノ熟字出テリト云フアリ今支那ノ書籍ヲ檢スルニ狙ハ獸ハ之ヲ見ス嘗テ博物新篇ノ中ニ狙ハ獸ヲ載スルヲ見テ凡狙ノナキハ支那ト同シサレハ西洋各國ニモナキ獸ナリ但シ狙ノ字ハ本音ハシテ依テ書スルニ詩經ノ豳風ニ狼跋ノ章アリ詩中ニ狼跋其胡跛其尾ト云フ胡ハ領下肉

ナリ即チ根進コレト之中ニ領下ノ懸丹ヲ跋ニ退カト
ニル中ニ其尾ヲ體シテラニラノ根體ヲ跋ニ依借ニテ根體
トナシ後世足飾ヲ體シテ才偏シナシシハ似テ今之
ノ同音及借トシハ毫モ天下向由ニテアラズん歎ヲ多引合
ニ出スル及ニヤルナリ

第六轉註・六書ノ中轉注ニモ異説多シ其關係遠
キモノニ至テハ轉注ヲ依借ヲ殆ト并ニカカサモナリ
其實轉注依借ノ二者ハ未タ字者ノ定説ニラザレバ
轉註ト轉展ノ意ヲトシテモナリ又文字ノ同類同
意ヲ取調ルルトトシテモナリ且他猶トニ稱シノ
異シハ説アルハ凡ハ備カサレバ今ハ一々當見ニテモ居
ルコト以上ノ説ニ就テ聊ク之ヲ論セシ

文字ノ同類同意ヲ取調ルルハ許定彦ノ説ナリ文字ヲ制
スル時其器物が木ナシハ木偏ヲ附シ草ナシハ草偏又手ナ
シハ手偏ナシハ手偏足ナシハ足偏トニツカカク大概同類
ノ物同意ノ事ナシハ同ト皆手即同ト偏目ト對テ付シテ
網編あみ方伎あてテアあハテアあナリ倒忠あ彼ノ示ノ字ノ上
ノ「三」古代ノ上ノ字ナリ下ノ「四」日月見ルル光ヲ無シ、
形象字ナリソユテ日月見ルル天ナリノ光ヲ世界ナリ
テ之ニ神ノ作用ナリトナリ神ノ字モ祇ノ字モ皆不
偏ニ从フナリ沖祇已ニ示偏ニ从フ故ニ神ヲ祭ルトモ祭
祀ノ字モ示ニ从ヒ又福祜福ノ如キモ神ヲ祭リテ福ヲ
受テ祜ヲ受ケ神ヲ祭ルニテ爲メニ禍ヲ受ケルトナリ知キ
之ナリ然レバ許定彦ノ説寧ロ文字ノ使用法ニテナリ

文字ノ結構法ハ如何トシヤ

轉注ハ互訓ナリトモ、戴震ノ説ナリト訓ト云、訓ナリト相成下ニ義例見ルハ、ト云、意味所、初始祖鼻ト下ノ類、十金一字アリ、是ラハ初ニ始ナリ、始祖ナリ、鼻ナリト互ニ相訓シテ、其ノ意味ヲ得ルナリ
展轉ハ江永ノ説ナリ、即文字ノ本義外ニ轉展シテ、全ク意義ノ別ナリト用ニシテ、例モ、令ノ字ハ、命令、令ナト云フハ、用ニシテ、本義ナリ、即人ノ言葉ヲ以テ、言展スナリ、ナト云フハ、用ニシテ、令ノ義ヲ用ニシ、又一轉シテ、縣令ナリ、ナト云フ官ノ名トナリ、之旨ハ、命令ト云フ義カ、人ヲ使フノ義トナリ、遂ク人ノ言ニテ、人ヲ使役スル官職ノ名トナリ、斯ノ段々ニ引伸展轉セリナリ

音形義

漢以前ニ於テハ、文字學者ノ説ハ、六書ノ段ニ於テ、已ニ其梗概ヲ示シ、然レ、後世ノ金石學者之ニ、甘シセ、スレテ、凡テ文字ハ、音形義ノ之ヲ成、成ニシテ、モ、ナリトテ、大ニ之ヲ唱、述セ、之、又文字學者ヲ修、ク、モ、ナリトテ、其、又、要ナリ、賞、ノ、且、其、説、又、聞、ク、モ、ナリトテ、之、之、ヲ、細、メ、シ、テ、而、シ、テ、後、我、説、ニ、及、ビ、聊、カ、参、考、ニ、供、セ、ン、阮、元、曰、ク、古、未、有、字、先、有、言、其、意、言、其、意、在、乎、諸、字、未、造、以、前、ト、阮、元、カ、所、説、言、上、音、ナリト云、ト、其、義、ナリト曰、ク、上、古、ノ、言、ハ、人、ト、名、凡、事、物、ノ、向、テ、皆、其、名稱、シ、ル、コト、知、シ、リ、(口、ナリト云、事、物、ノ、名稱、ナリト云、即、也、) 又、胸、中、思、フ、所、ノ、事、ヲ、意、ト、シ、ク、意、即、義、

之字ノニ種ノ言ト義トシテ後世ニ文字ニ寓シテ
トリ或同目ノ六書皆以形ノ人声配矣有聲而
有形者象其形ノ則可以為書有聲而無形者
精其事ノ則可以為書有聲而有聲者會其意
則可以為書之解釈其心形ノ名称ヲ付せんモ
事情ノ名林ヲ付せんモアノ意ヲ名林ヲ付せんモ
ト云フチ即文字ハ音ニテ出来ん形ニテ出来
んト音義ニテ出来んトノ二アリト云フカ
院元ト其況甚相似タリ今案之ルニ互ニ形義ノ
コト各其文字ヲ異ニせんモ即一文字ニシテ音形
義ノ三ツ寓スルニ例シテハ口ヲ以テ果ノ互ニ音義
或場合ニ於テハ人ヲ以テ互ニ形ヲ曉えんシテ
或場合

ニ於テハ人ヲ以テ互ニ立見義ヲ曉えんシテ之即一
字ニシテ音形義ノ三ツ寓有ルニ所以チ更ニ例
ヲ奉ルハカト乾ノ互ニテニ文字ヲ以テニカ如
し前後ノ言葉ノ行概ニシテ只天ノ形ヲ曉えん
ルニ止らんモアノ又甚大ニシテ測度ニカカ
義ヲ會得せしめ場合モアルニキチコト神ノ意
ヲ以テニ文字ヲ示ス又然ノ前後ノ言葉ノ行
概ニシテ唯地形ノ曉えんニ止らんモアノ又
地ノ序藏セサキノ意ヲ會得せしめ物
合モアルニキチカシ地ノ音ヲ以テニ文字ヲ示シ
水ノ流ルニテ水ノ冷濕ナク音義ヲ曉え
んシメリ雜ノ音ヲ以テニ文字ヲ示シ火カシル

形ク成ラシメ大ノ結約クハ意ヲ我ク成ラシメ
亦然ルナリ鄭玄ガ周礼ノ注ト云ハ其字流有某
字ト云フコト多シ仁者人也我老道也トトノ類モ
仁ニノ音ヲ以テ仁人任人等ノ如キ異ル又ハ字ニ
合シテトナシ或ハ合ニ於ケルコト相名文字形ヲ
成ラシメ又互ニ相其義ヲ成ラシメ仁ノ字ノ如
キ舞曲ニハ難任人黃夷率服ト孰シテ実ニ任ノ
字ニ作シリ又白陶漠ニハ而畏平巧言令色凡
任ト孰シテ実ニ任ノ字ニ作シリ下ニ詩經ニ人
甚々ノ詩ト仲氏任只ト孰シテハ任ノ字ニ作
シ氏且ニ我ニ任リ人比一ナリ後世ノ儒者仁
人ト云フ人ノ仁リルヲ知リテ而シテ未ダ仁ノ任リ

任リル又ハ等ノ文字カ何代ニテ如何ニ其價值
ヲ殊ニモ入カテ知ラズ又判ノ者ヲ以テ義理ノ文字
ヲ亦モ亦然リ也傳ニ無死不擇者ト云フ杜預
ノ注ニ曰ク吾所採蔭之所古字意同皆及借即
吾ノ蔭ノ義ニテハ仁ノ音ニ以テ其字形ヲ音ニ依
リ其意ヲ我ク蔭ト取シテ言葉ノ前後ノ行掛
リニテ吾ハ仁トイフハ其文字ノ形ニ何ナリ蔭
ノ字ノ音ヲ我クアト云フ蔭ト云フ音味ノ仁ハ其
物ヲ以テトシテトシテハ仁ナリ
然ルニ仁玉裁輩ニ至リテハ其況ノ于曲然ルキ
モノ多シ段玉裁曰ク以象形指事合意諧声
及借轉注有形以十七部有音ト云フ凡テノ

我者之テ音韻字者か所謂音ト相混をノ後
清之ヲ音韻史ニ移リテ云フ所アリ
古之禮曰：伏羲始書八卦、命臣宓戲造六書、
書史金匱要曰六書八卦之變也、卦以六位而為書、
以六文而為書、

◎音韻史總論

音韻ノ事世月ノ專内ノ人アリ又實ニ專内ノ課
程ニ属シ知ラヌモノ、知ラヌ事タリ予豈自カ
其國之義ニ事カント云フヤ然氏カニ已ニ文字史
ヲ滿コシテリ而シテ音韻ノ文字ト密接ノ關係
ヲ有スルモノナシハ故之ヲ論セサルヲ得ズカニ人
近來世ノ所謂音韻ヲ之テ自ラ任スル大家也

世ノ流ヲ聞リシ(其日本ノ音韻表西ノ音韻ノ
事ニ其ノサシテ知ラヌモノニテ唯漢聽ニルノ参考ノ
爲ニテ支那ノ音韻書ヲ種々雜多ニ引證セシ氏
其正ヲ得タシモノサク其ニヤニ至リシ(彼が輩美
ノ直モ漢籍ノカチカガ爲ナリ)向流訓點ノ誤リ聲
音ノ混リサハ多ク人ヲシテ嘆ク聲ノ聲ノ相混(サ
シクモルリ今ノ時ニ當リ一言以テ之ヲ弁セシト
モ又實ニ已ラ得テシニ見ナリ然トモ氏直流ヲ
入ノ之亦優ニ(半半ノ日子ヲ要セサルカニクハ
今ノ音韻ノ大綱ヲ奉テ直録ヲ例シ如ク兄等ヲ
シテ無用ノ付向シ往來セサルメト故ニト之
五音ノ時ハ、音ト云フモノカ)音ト云フモノカ(其又)

別判然たり。周に至りては、音トテ五訓セリ。昔ノ代ニ至リ、始メテ五音并ニ周代ノ聲以外ニ音トシ、モリ依リ又音以外ノ韻トシ、文字ヲ依リ然レ其意ヲ我ニ至リテ、音韻共ニ直ニモ異テ、所トシ唯當時ニテ、音韻ノ文字ノ制作ヲ感セシメ、モ人別ノ物アリテ存リ、(段)逐テ講シモテ行ク、向テ行ク自カニ理解スルコト)今ノ人、音ノ音韻ト云フハ、周代ノ所謂音ト音以下ノ所謂韻ト云フ合シテ音韻ト云フ、純字ヲ依リシモ、テ而シテ我カ今テ明カサシムルハ、文字史トノ關係ニ止ルモノナシ、バ不成立的、文字時代ニ於テ音韻ノ説明タケテ、其任重シクシリ、然レ耶カ亦ニ訂スル事アリ、モテ、(ト)歌ニシモ、(ト)ハ、文字制

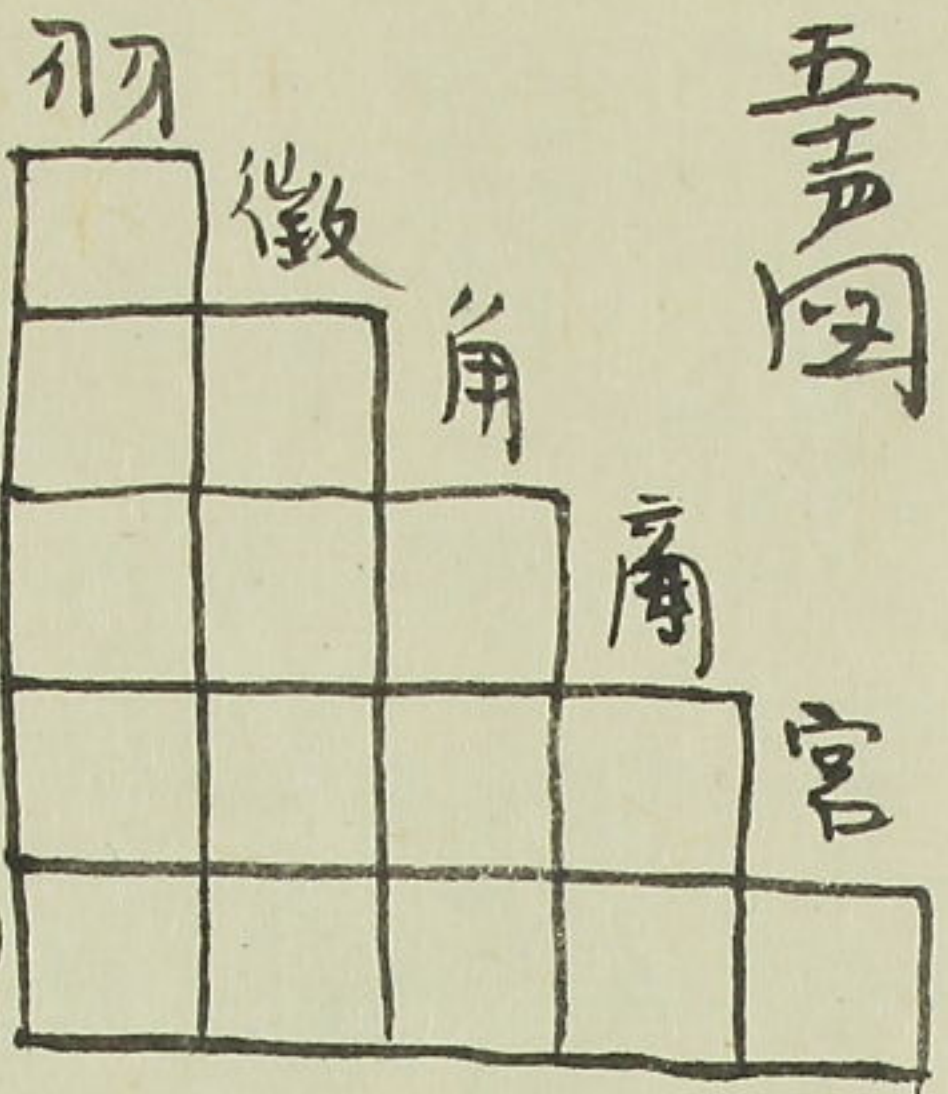
作以後ハ、晋代ノマテモ及フトナセリ

○第一音、声ノ文字ヲ解釈セシメ、先言テ文字ヨリ始メ、サレカ、言トシ、ノ意ヲ人ニ通セシ、爲メ、口ヲ借リ、テ「モノイフ」言フ、故ニ漢文ニ直言、自言ト云フ、又書ノ「舜典」歌、永言ノ新ノ注ニ曰ク、直言不足、以申意、之ヲ親名ニ曰ク、言宜也、宜、彼此之意也、ト云フ、テ、カシモ、ナク「アヤ」モ、ナク、凡テ、口ニ、言フ、テ、申ノ意ヲ、シ、心ヲ、甲ニ達スルヲ云フ、次ニ達スル、声ト、五音ヲ云フ、五音トハ、宮商角徵羽ヲ云フ、宮商角徵物トハ、言ノ(言ノ解參看)文トモ、昔、氏、郷、音、氏、稱、ス、キ、音、味、ノ、昂、低、塵、秋、ノ、五、ツ、ノ、度、ヲ、云フ、モ、ナリ、即チ、
官一最低声
商一低クシテ稍廣シ

角——最廣声
 徵——狭クシテ稍昂シ
 羽——最日ク最狭声

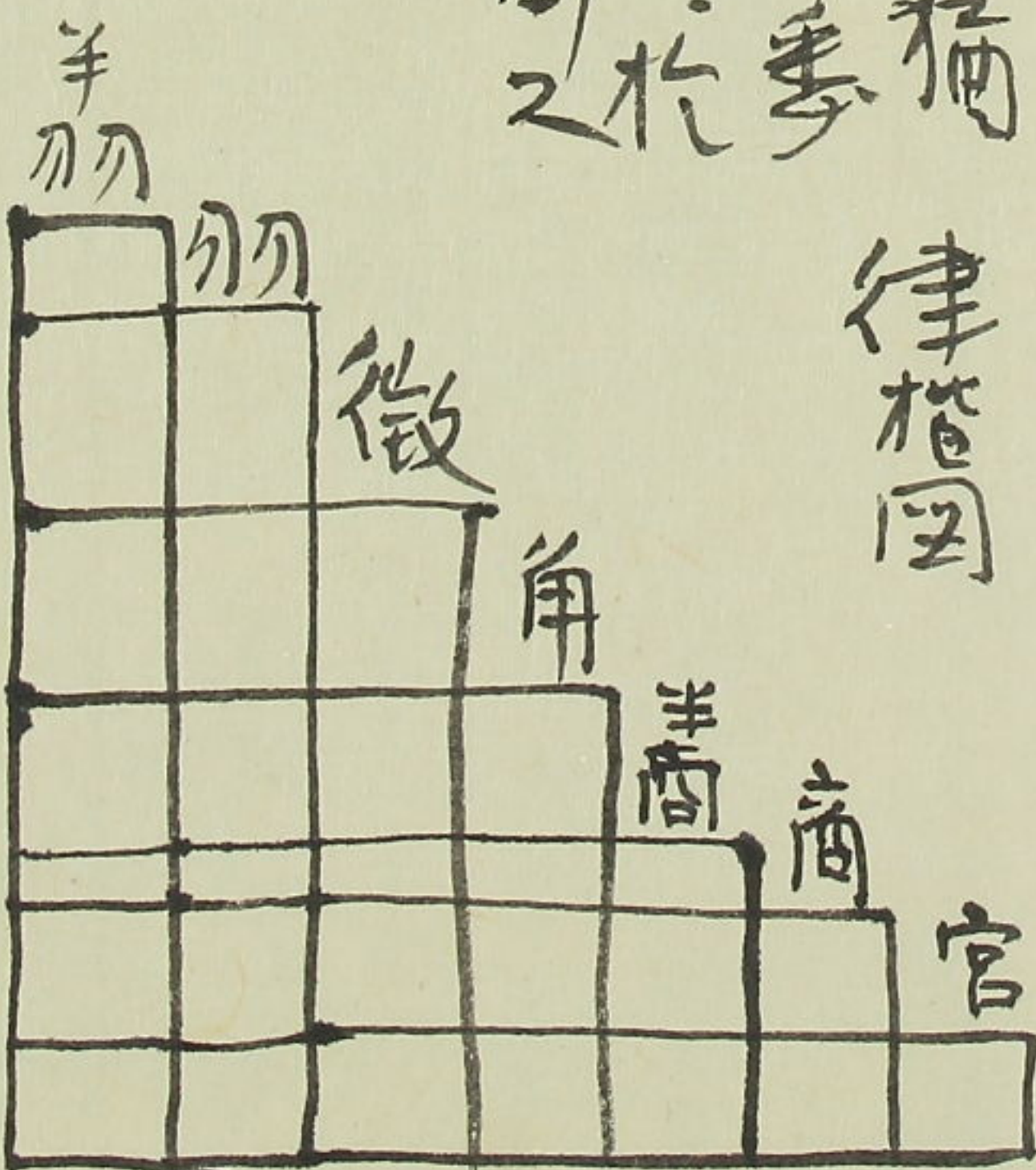
要之官声ハ故意ニ先ノ發声ナリ南声ハ思想平易ノ
 中ノ發声ハ皆ハ部ニ属ス（古来ノ詩十分ハ八南声
 ニ属スナリ見テモ和ルキナリ）角ニ至リテハ高シ劇シク
 呼フニテ之官声ノ正及対ナシ先直官声ハ故意ニ先セリ
 ルカ如ク同ノ故意ニ發セラルナリ徵亦シ悲哀
 ナリ描リシ急声疾呼ハ羽声トス是蓋ハ人ノ声ノ自
 然ヲ介ナラテ五ツトナセルナリ今我國ノ五声中ノ母
 音ヲ仮リテ之ヲ例ニシバ宮イ、商エ、角ア、笙オ、羽ウ、
 昂チハハハ最伯音「正」之ニハ「吸」コウニ至ルナリ毫
 末モ違フ所ヲ見ズ今五声ノ聲格ヲ示セバ

五声圖



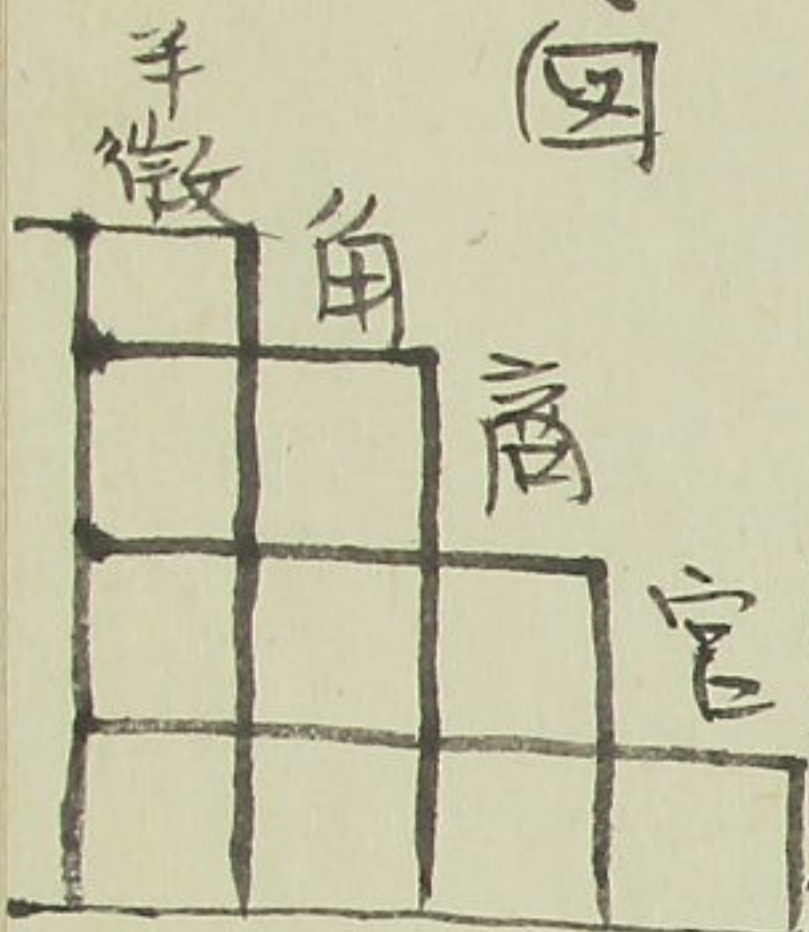
是ナリハハ猶
 以テ曲節ノ季
 リス定メテハ
 テカ律ヲ制ス
 如下

律格圖

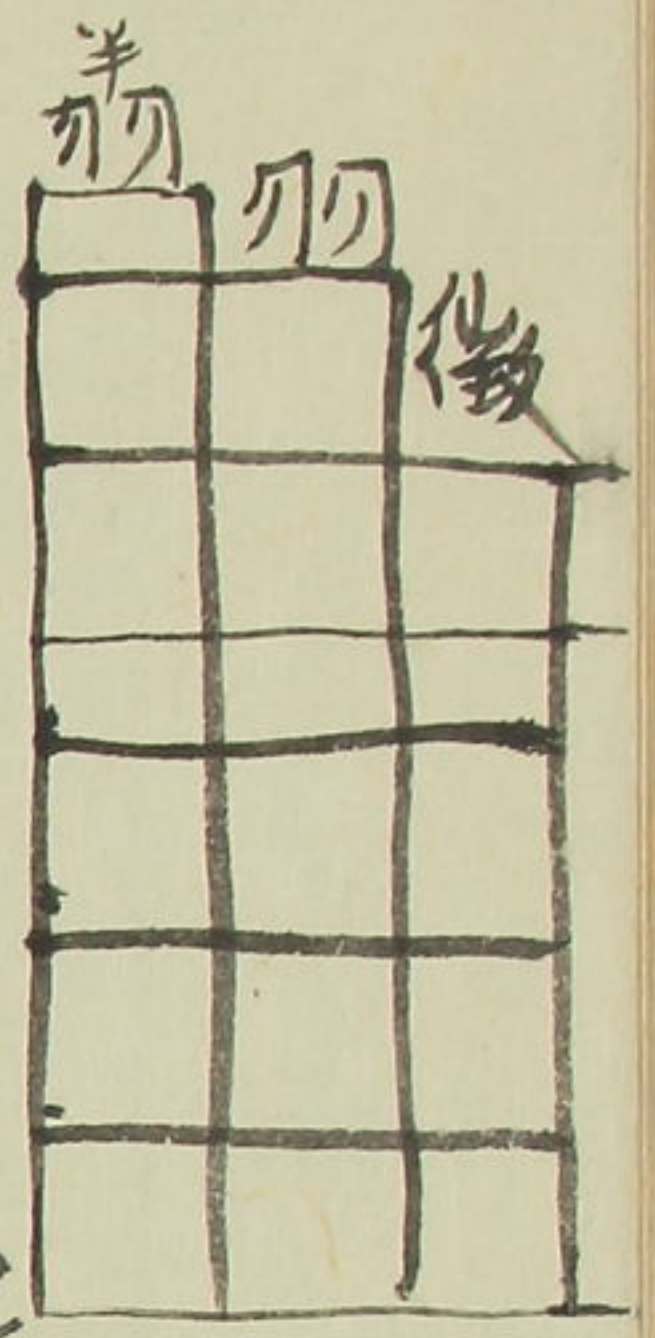


下圖ノ如ク南
 半声ハ皆ハ物
 之ヲ變商ハ
 如セ羽トス

呂格圖



上圖ノ如ク徵ハ
 半声ヲ下リラ
 上モ言フ
 律呂共ニ五声ニ
 向テ更ニ半声
 上トナシテ
 半聲ヲハ



三、所加ハハノ各ナリ以上單純ニ
 律呂トモナリハ律ヲ六屬ニ此
 呂ヲ六屬ニシテ之ヲ六律六呂トモ
 之ヲ合律ニテ十二律トナリ六律ノ聲數凡テ四十二
 聲六呂ノ聲數凡テ四十二聲單純ノ律呂ニテ凡テ
 一キモ各之ヲ六屬カスルハ聲ノ強弱ニ至ルノ格致ヲ
 示セルナリ即六屬ノ律呂其聲モハ弱ニ其上也ニ屬
 ハ一屬ヨリカニ屬ハ二屬ヨリ屬一屬モハ此カニ聲ヲ純
 クスルナリ故ニ音樂ノ字者ハ律呂トシテ單ニ七音ト稱
 シ律呂ノ六屬ヲ以テ音ノ強弱ト稱スル例ナリ音ノ強
 弱ト稱スル調子ノ昂低ヲ以テモリテ猶和倍ニ味線
 ノ調子ニ之下リ本調子ニ上リハんカ如キニ之ナリ

而シテ陰陽ノ二子ヲ使用スルニ支那古來ノ習俗ニ
 シテ呂ヲ陰律・律ヲ陽律トモ云フリハ十二律
 聲ノ全數合計八十有四年ナリ
 抑モ聲ノ子ノ始メテ古書ニ見テハ書ニハ舞曲トナ
 舞曲ニシテノ聲依永律和聲ト又益徳ニ由ラテ予
 欲論ニ六律五音八音在治忽出歎五言ハ世聽ニテ
 中ニトナス聲依永トハ五音九元ノ直ニシテ所ノ言ハ
 大ニ異ニシテ即節ヲ付ケ又文ヲ付ケ節ヲ多クスル也
 此ニ律和聲トハ調子(七聲)ヲ六屬ニ分ケテモリハ
 ラ節(五音)ヲ以テ其協合ヲ程善カクシテ五音ノ
 下ニ八音ノ文字ナリ八音ト何カ即先キニ所調五
 音ノ外ハ八音トナシテニトモナリトモ之ナリ

○ 中二音、音ト凡テ物ヲ擊テ或ハ滑キテ響ク凡ノ名
ナリハ音ハ金石等ノ類土草木ノ人聲等ヲ謂フ
ケハ平卷ノ類シテ八音ト云フ所由ノモノ之皆物ノ中
ニ在リテモモ善ノ音ヲ及スルモノナリ然レ今制字ノ
法ヲ考ルルニ言ノ古文ハ音ニ依リ~~ル~~シリ即口ヲ立ッ
ルト云フノ會意ニテ直言ノ意ナリ音ノ字ハ立日ノ二
字ヨリ成ル曰口中心ノ流機械ハ形容ニ依リ我
意ナク人ノ達シ得ル可ナク云フ言ノ字トハ大ニ其類
ヲ異ニシ或ハ口ヲ閉ケ或ハ口ヲ開キ時ニヨリ人
唯ノ團コトモクニシラ形容セシナリ云ハ曰ヲ立之云フ
ハ口ノ聲ノ字ト同意味ナリ故ニ流文ニハ音聲也又ハ声
音也トアリ且聲ノ代ニ於テ人ノ付ルテ声トシ物ノ

付ルテ聲ト云フテ全人ト物トノ區別ヲ立ラレシナリ
初シテ文字ノ大成リテ周代ナリト云ハ音ノ字ヲ辨
典ニ籍メテ人ノ由人ノ前キニ言ハル如ク音ト聲
トヲ訓シ人ト物トヲ混セシムルハ深クセリ及
ン所ナラズ也解釈ニ於テ凡ハ文節響音ノ三ナリ之
者既ニ音字ノ下ニ於テ其註解トシテ引キテシドモ
其ノ人ヲシテ過リ易カシム且ツ之ニ花明カクナリ
ソ經テ音字ノ二花明カクセバナリ
御書、我ニ註シテ御音ノ字ニ著リ其其花明ニ定ム
況又ハ御音也ト云フセバ許氏ノ注又ニ訓ニシテ
御音ハ声ナリ音ナリ音ナリト(音ノ部参看)
云フ片ハ我ニ及スルモノナリ且ツ之ニヤ~~ル~~也ニ名氏今静カク

之ヲ果テルニ書ハ大禹漢ニ推影即若ノ文字アリ即若
 響ノ熟字實ニ以ニ始リ果ニ終ル響ノ声ニ從
 ノハ形影ノ形ニ從ル如ク決ニテ物類ハカクテ調ノ
 ニテ先ニ声アシ心後ニ響アリ前ニ音アリ心後ニ
 響アリ故ニ玉漏ハ響應聲也トアリ(已ニ應聲ト
 云ハ中又應聲ト云フ得レシ)之ニ依テ之ヲ考フルニ宮商
 角徵羽ニ之ニシテ濁聲ヲ云フニテ清尾ヲ云フ
 リ天下ノ声者出シテ五聲ニ止ルニキモノト云フ然レ声者
 千種万類入ルニ之ヲ察スル其千種万類ノ声者モ皆
 尾ニ委ルハ宮商角徵羽ノ五ツニ響カサシモノトテハナシ
 備テ天下ノ千種万類ノ声者モ皆統フルニ以テ五聲ニテ
 セルナリ故ニ今ノ言法ヲ云テ之ヲ評スルハ即聲ニ即聲也

(ハ) 經ノ影響ニ玉漏ノ響應聲也ノ文字を居テ之ヲ要
 スルシテ又天下ノ言法ニ皆已ニ以テ五聲ノ響カサシモノト
 ハ則チ声即言ナリト謂ヒ得ルナリ(凡声ノ言ト異ナ
 所以ノモノハ響者ト是ゾ外ニ於テ更ニ必要ナモノアリ
 文ナリ節ナリ)

○

文節、文節ト云フナリ引リ其間ニ自ラ見ルハ抑揚
 ナリ故ニ書ノ聲曲ニ歌永言声依永トアリサシバ
 五声ト云フナリ引リナリ言ヲ永ク引クハ歌謡ノト云フ
 ナリ但し節ヲ以テ樂ヲ和ス器ニ節ト謂フモノアリ混
 ズルカシ

以上五帝時代ニ於テ声者ノ梗概ナリ以テ漢ノ時
 代ニ於テ声者ノ梗概及其聲者ヲ叙シテ以テ之

那に於て如何にカノ不成立の文字時代が永かりし
カノ所以ヲ説明せしとス

○五帝時代於てハ声音ノ地位及具發達（声音の

文字其之ヲ正史ノ上ニ於テ始テ見ルヲ得ルハ書ナリ
書ノ發達ニ曰フ詩言志歌亦言声依永律和聲
之ヲ以テ試ミ之ヲ解和之シバハ詩ト曰フモハ志詩
并ニ志子ノ解ハ今ハ要ナキヲ云セク）ヲ直言スルモ
下ノ楚氏自言スルハ其感亦ノ度其薄キ
ニリテ之ヲ歌ノ如クニ詠フカニ備之ヲ強クハ語
尾ヲ永ク引キ其抑揚ヲ正シク五声ニ響カシメサ
ルカニ如何トシハ五声ハモト語尾ヲ永ク引カシバ
人ナリテ明瞭セシメ然ルベシナリ而シテ十二律ノ之テ

人声ト物音トノ合ヲ知シ詩ヲミル其妙ヲ及ラサシムルニ

言・永声律

見ヨ詩歌声律ノ密接ナル關係ヲ明

言・永声

カサレガ爲メト作者が如何に言ノ声々

苦心ヲ見ヨ而シテ和聲ノ律ニ於テハ九詩ヲ以テ其

妙ヲ尽ラサレトナリ之即言外意ハソ支那古文ノ

全神整然一條ノ善ナク而シテ能ク簡潔ナル後世

ノ千言万語其意ヲ盡シ能ク子モノニ比シテ驚嘆セザ

ラ得ズ一其ニ如ク多シ且ヤ古代言ノ字ト声ノ字トハ

同韻ニテ即二句目ト四句目ニ押韻ナシテハ其ハ四句

ハ待ニ似タシ氏詩ニハアズ直不成立の文字時代事

實ニシテ周代ニテ傳ハリシモノハ十分ノ九ハ皆此有韻

ノモリナリ

今ノ学者有韻ノモノヲ取リテ皆直ニ之ヲ詩ト云フ凡
ソ能クモハ皆待リト云フ想棄テ支那ノ古文ハ韻
アリ故ニ支那ノ古文ハ皆詩ナリト云フ其ノ言
ノ各々モ有リ然レドモ氏ハ此輩本ト支那於允詩
ノ字ノ定義ヲ知ス但シ散文中ノ一神ヲ支那ニテ
ハ詩ト云フト見ル是固ルモ當テ今ノ成文
字何代ニ於テハ事實ヲシテ後世ニ傳ヘシモノハ種類
ヲ列挙スル甚テ論理ニ合シテ其ノ國家ノ利益アリ
ルモノ、第二歌、論理ノ合不合ヲ問ハズ國家ノ利益アリ
ルト否トヲ問ハズ、其ノ韻、今ノ文章ノ押韻ニ見ル
ノ同シ、以上ノ二者共ニ皆韻文ナリト云フヲ得、宋ノ

陳振孫曰(皇清經解卷四ノ音論ニ書目解題アリ)
古今世殊南業倍異、言法音聲有不得尺合者、古之
為詩、學者多以風誦、不專在竹帛、竹帛所傳不
過文字、而聲音不可得而傳也、此又後世、其伏
傳リタルハ詩ト云フ也、陳振孫、宋人ナリ、其代
ノ文章ニ凡篇独リ、後リナリト云フ、之ヲ以テ是ヲ推
ス、其ハ不成立的文章時代、於テハ詩モ歌モ、韻文モ皆風
誦、專ラ文字ニヨラセ、其後過誤ナク、後世ニ傳レ
テ得ルハ、本リ且所トス、故ニ書ハ皆韻文ナリ、易
ハ皆韻文ナリ、列子ニ引ク所ノ堯帝ノ言ハ韻文ナ
リ、且外莊子ニ引ク所ノ古言又亦付論法等ニ引ク
所ノ古言下ノ淮南子尹文子等ニ引ク所ノ(以古

治古言ト律之ハ皆周以前ハ解せしミ悉ク歌アリ
ルハナレ之皆詩ノ如ク歌ノ如ク歌文ヲ謡フモ夫ノ六律
五声八音ヲ以テモナリ故ク益稷ニ曰ク予欲聞六律
五声八音、在治也、以之納五言、汝聽、是レ正、未ク詩
トナレバカクモ氏能文ニシテ治國平天下、律益アリ
詩ノ如キモノヲ律ノ如キモノトシテ人ハ其カ
レトモナリトアリ孔叢子書論中ニ曰ク子夏曰、凡音之
所愛者於夫子者、志之在心、弗敢忘、無退、西宗居河海之
間、深山之中、位懷室、編蓬戶、常於以彈琴以歌先
王之遺、則可以樂憤懣、言已貧賤、サレバ能文ハ皆歌
トキモナリトアリ知得、又子夏が彈琴以歌先王之遺ト
云ハ即周代ハ此ハ書經ノ能文アリト知ル、凡ク歌、

ト云フハ音記ノ法ニ於テ且最モ宜キヲ得ルモノナリ是レ不
成立の文字時代ノ比較的之長カリシ所以カ一言ヲ定義
スルコトハ声音ハ不成立の文字時代ノ文字ナリト云フヲ得ル
コト大ニ成立の文字時代ノ文字ハ其時代ニ於テ如何ニ程
度ニテ發達せんカヲ見ル、且効用實ニ文字ニ異ナリナリ
或莫ク於テ人却テ文字ニ勝ルコトアリナリ 舜曲ニ舜曰律和
声、八音克諧、血羽奪倫、神人以和、又タ變曰、予擊石拊
石而歌、率舞、益稷、變曰、於予擊石拊石而歌、率舞
庶尹允諧、又タ變曰、夙擊鳴球、搏拊琴瑟、以詠祖考
來格、虞賓在位、群后德讓、下管鼗鼓、合止祝敔、笙
簧九成、鳳皇來儀、變ハ声音ニ善クシテ律ノ仕
ハレモノナリ、夏而歌、率舞、ト云フ諸尹允諧ト云フ鳳皇

未儀也印人以和... 孔子が... 文章
修飾... 又其一班... 而... 虞賓在
位... 群后德讓... 至... 人... 声音ノ効用最モ且高
高ノ程度... 如何... 帝
其... 無教ノ衆族長... 皆天下ノ帝... 權利
有... (衆族長ヲ称シテ群后群降而姓有衆トシ衆
族長ノ長昂帝ヲ称シテ元后トシリ又稀シテ單ト后ト
シテ... 故... 舜ヤ禹ヤ湯ノ群后即
衆族長ニ長シト共工ヤ驩兜ヤ鯀ヤ三苗ヤ皆一血族ノ
長トシテ... 各々自ノ... 帝ノ... 天下ノ元后トシ
フシ能カシ... 帝ノ... 思... 凡ク一血族ノ長

メ... 天下ノ元后... 權利ヲ有シテ唯其徳ナ
キモノ以テ元后ト爲ス能フ... 之ヲ詩ニ作リテ歌
ニ詠シテ其声六律ハ音以テ彼等ノ感情ノ起ル所ヲ利用
シ不知不識ノ向ニ於テ之ヲ化シ... 今群后德讓ト
シテ... 効化知... 虞賓トハ丹朱ノ事ナリ丹
朱ハ帝者ノ後トシ其父帝トシ其子ニテ... 紹トシテ
不可... 如リ... 天下ノ衆族長皆元后トシ
テ... 紹トシ帝者ノ後トシ其徳ナキ
以上ハイカガ帝位ニ... 今虞
賓在位トシテ又... 効果... 其分... 今
丹朱自其身... 既...
又... 東廡于海... 西被于栢州... 朔南暨声教... 迄于

四梅、声文の聲ノトハ即声音ノテ教ヲ立テ感化カド
リコトナリ

上東漢ノ時已ニ声音ハ不成立的文字時代ノ文字ナリト
リ知ルヲ得也然則音韻史ヲ論ズルハ其任ヲ能
クシモナリ然レテ周以下今ニ至ル音韻ノ變遷
ニ統テ更ニ一編ヲ叙シテ世ノ是非ヲ漸ク参考
ニ供セト欲ス

○國時代ニ於テ
音音ノ變遷
韻文變遷ニテ散文トナリ
且向多サノ歳月ヲ経過セザルニ由リテ
サニ然リテオラシテ由初文子ヲ大成セリノ後
ニ韻文ノ行ツルニ事實ハ夫ノ二有ニ由リテ見
テ先人言フ、古詩之千言アリ孔子之ヲ刪テ
三百五

篇トヤリト之全ノ誣言ニテ信ズ前ノ言ハ如ノ
五帝以來声音ノ合ハセテ皆傳フニ由リキモ人
ト文トアリ而シテ其ノ音ハ皆押韻セシモノナ
リ子ガ古詩之ヲ刪テ三ノ千ニ至ルニ至ルニ
刪シシモノナリト知ルニ由リテ故ニ寧ロ古文
ノ百五篇トナシ名クテ詩ト號フトシテ方
周代ニハ声ヲ以テ音ヲ定メテ四ノ五ニテ樂
ヲ相訓セリハ今傳ヘテ音ノ韻聲ハ即
今ノ語世ニ至ルニ音トハ即今ノ語也
之月止声也ト注シテ音トハ即今ノ語也
振之也ト是し声ト音ト相通セリ
又金聲之ヲ区別セリ今ノ語ハ即今ノ語也
又金聲之ヲ区別セリ今ノ語ハ即今ノ語也

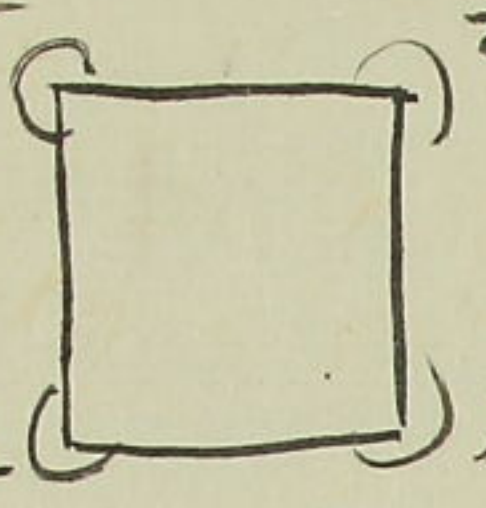
本似自から侵るからんモアリテ見せし
又声子ヲ南子ト執せんアリ孟子声子ノ過情君
子耻之トんハ名答ノ意味ナリ名答ヲ声聞トんハ
朱卷ノテ音来ヲ蹴ニ立ツルカ如ク詳判ノ善シク
ク轉セルナリ論法ノ南也此達也ト云モ亦声聞
南ナリ

如げ音者ノ二子ハ五帝中より周ニ至ルコト高モ其用法
ヲ誤ラス秦火ノ一炬実ニ之ヲ滅シテクハ兩漢ニ因
ハ音者ノ隋思可代ナキ下ク晋ノ世始テ音
文字アリテ世ニ見ルコトナリ英氏龍ト音者トハ似
所セアル食全ノ因係ナキモノトシテ之ヲ解セクハ
カク周以上ノ法ヲ以テ之ヲ解スルハ龍ト即言

〇

ノ部ニ属セサレバ言ハク音者ト同シカコト今龍ヲ
済スルハ先ツ四声ヨリ入ルナシカコト

四声 魏ノ仲李登ナモアリテ音者ト云フ著
如何ナシ言法ヲ七語尾皆四声ニ即カサシモノト
シテ天下ノ言法ヲ提テ以テ是クハ四声中ニ
羅チ一登ガ四声ヲ言フノ法ト云フ



去 入 平 上 高 卑 莫 低 昂
上 平 入 上 声 短 促 急 收 疾
之 聲 之 四 声 之 公 義 法 有 文 子 之 四 方 之 國 符
シテ 寄 易 声 之 何 能 不 使 之 使 又 而 之 四

声ハ發音ノ高下ニヨリテ定ムルニテ即平上去入
 トナル(一正)ヲ合シテ一ノ声ノ中ニ置キテ昂チ五声
 ノ角七世ニ見セリ端緒トシテ見ルヲ得んチ吾ノ
 片呂静スモノ能集ヲ著セ氏音ノ片由顯トモノ
 四声切韻ヲ著セ氏皆未メ之ヲ分テ五声トナサリ
 キ梁ノ片沈約宋ヲ善クシ詩ヲ善クスルヲ以テ名アリ
 平声ト云ク更ニトナシ上平下平ト云フ以テ此テカ
 イ工 P オウ トナリ五声ノ旧ニ復スルヲ
 上平 下平 上 去 入 得ナリ 声高ノ音 秦本ヨリ
 けニ至ル人多ク之ヲ願ヒサル一実ニ七百年余其後隋
 ノ秦王俊太モノ能墨ヲ著シ陸方云々モノ切韻
 ヲ著シ唐ニ到リテ陳博カ孫協カ産韻也

流書皆廢タシ、五声已ニ旧ニ復ス以テ此テカ律
 呂又明ク大ク得ナリ也、
 ○ 第ニ韻、李登ノ四声ハ單ニ高上ニシテ應用セシ、
 即ちヨリ、悉曇毘傳羅大法方カ書リ之ヲ四声
 ニ配スルニ容易ク四声ヲ明シテ得シ、悉曇ハ字
 毘傳羅ハ字文ニテ昂悉曇毘傳羅ハ文字ノ切法
 ナリ及切法ノ中ハ、彼ノ四声モ其音ノ高低ヲ容易ク
 明シテ得んチ、
 言フコトトテ四声ト及切法ト定テ其音ノ高低ヲ有ルニ
 至リテ清ノ康熙帝ノ法ニ七音之傳肇自西域
 以ニ十六字爲字母、縦爲四声、横爲七言、而後天下
 之聲(音ノ四声)縦横ナリト康熙字典ノ能ノ注

ニ説文曰和也ハ音ノ員也トアリ是ハ韻ノ文字ナシ字典引
ク所偶直書目ヲ誤リテ了リテ蓋シ之ヲ案トシテ説文ニ
韻ノ字ナキハ道理アリトキ未チ印度ノ反切法ノ入リサレ
以前ナシハハカカカカノ字ノ必要ヲ感セシ近來或音韻
學者が説文ニ和也音ニハシ音ノ員トト物知リ音韻
流ニ多クモ可笑シ彼ノ韻字字典ヲ見テ未チ説文ヲ見
ズナリ員声トハ言ハレテ中ノ韻声ニ与ルトナリテ知ラ
ズナリ字典又曰ク陸機ノ文賦ニ收厄世之韻文、未
千歳之遺韻、又云ノ文人言韻始見於此、漢魏以
上之書皆言音、不言韻、自晋以降音降而韻興、
トアリサレハ陸機ノ文賦ニ如メテ韻文字見レシナリ而
シテ陸機ハ晋人トシテ、晋以前夫ノ李登が四声ノ祭

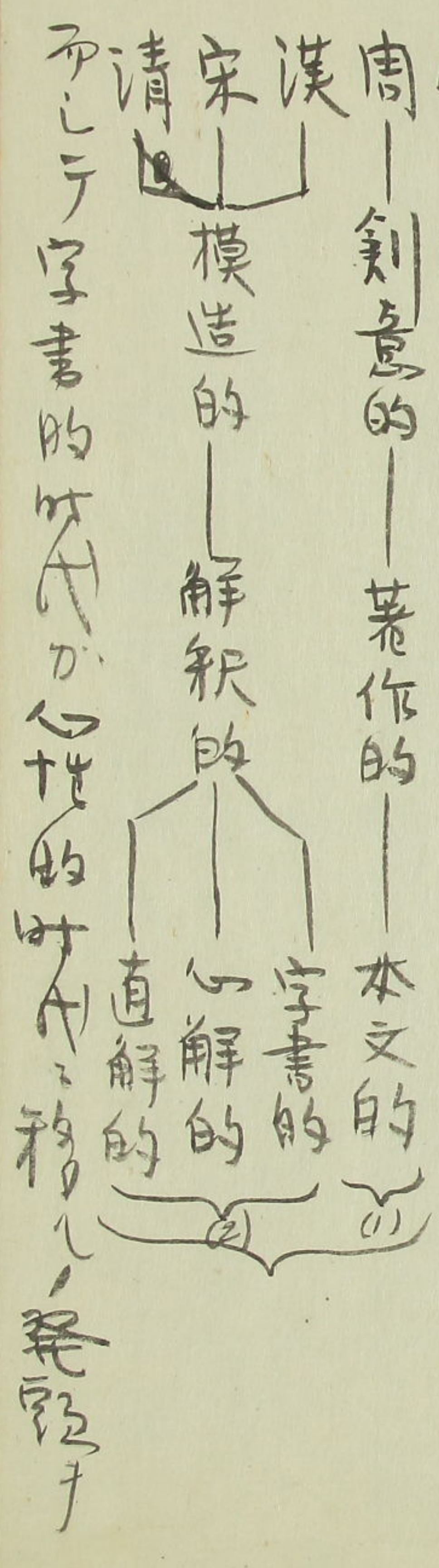
明アハ其本ハ韻ノ文字ナキヲ知シ足レリ然レ陸
機ハ晋靜以後ノ人トシテハ韻ノ文字ハ實ニ晋靜
時ミリトシテ人トカズ(晋靜ノ著ノ集韻アリ)陸機ハ
只之ヲ文字上ニ應用セリトシテ過カズ
是レ古今音韻要略ノ梗概ナリ今ノ世或ハ音韻ヲ
音トシテ音尾ヲ韻トシテトモノアリ果シテ何ノ心ヤ

◎文學史本論

○支那文學史ノ時代及概綱、支那文學史ニ前ニ述ベシ
如ク四時期トナスニモ更ニ之ヲ綜合シテ二大期ト
テし得ルニ第一創意的文學ノ周時代、第二模
造的文學ノ漢以下宋清ニ至ル時代ナリ、
第一期、實ニ支那文學ノ發達成育ノ代ニシテ秦火

了之ニ初セシヨリ漢ニ及デハ學者一喜ハシ
 代ノ書ヲ撰リ出シテ之ヲ解釈スルハ勉メシ金華ハ
 テ今時ニ至ルニモハ一期ノ範圍外ニ止ケテ出ルノ目見
 ナシトナリ故ニ文學史ニ於テ最モ重キヲ置クキハ
 一期ニテ今迄ヲハ二期ノ細別ヲ概説シテ後更
 ニハ一期ヨリ本海ニ入ルルシ
 第二期ノ主トシテハ漢ニ清トナシテ得テ
 漢ニ字書時代ト謂フニ宋ハハ解時代トナシテ清
 ハ直解時代ト謂フニ何シモハ一期ノ又字ヲ解釈ス
 ルモノハ解時代トナシテハ一期ノ又字ヲ解釈ス
 ヲ基トシテ之ニ訓詁ヲ施シ宋ニ至リテハ學者ノ見識
 ヲ高メ漢ノ字書ニ依テ屬トセシテ又直トナシ一期ノ

書ニ溯リテ之ヲ解釈スルハ自己ノ心ヲ基トシテ其意
 ハシクハ氣ハ体ヲ理ハシテ天下ニ理ナシバシハ即人
 ノ心ヲ大長ア人ノ心ニ宜シク自己ノ心ヲ標準トシテ解
 スルハ清ニ至リテハ學者更ニ又ハ字ヲ連メテ漢宋共
 ニ取テハ一期ノ書ニ宜リ二期ノ書ニ據リテ解クハレト
 ナリ即本文ニ於テ種々考証シテ直解セシテ今
 以上ヲ因テハ



けしんれいこはさかしくし

か一期ヲ少別こいぬをたしし

書之量一碑の代一清伏一供給一書卷一論文一感情

周一羊冊の代一義題一需要一文章一散文一知力

由の冊の代一歴史一列子一龍ヲ知ル一外十しりし

五帝の代一入仁ハ任士十ト書キテサこも價值十カ

リし周に到リテ仁ノ字ヲ專用シテ大ニ貴フコ

至しり故に彼ノ五帝の代ヨリ祖述スル老子曰ノ

曰ク千季万の代仁ヲ退ク一喜言ニ信セリ

書ニ巧言令色孔子ト人ヲ孔子ハ仁ノをコナ

年らふきモノをコナシテ孔子ト人ヲ孔子ハ仁ノをコナ

仁トシテ孔子ト人ヲ孔子ハ仁ノをコナ

ルノ地位ニありし即チ當時國ノ世カふ仁ノ世
下りしカ為メ之ヲ永続セシメシハ是れ孔子ト人ヲ孔子ハ仁ノをコナ
事ナリトナリ孔子ハ仁ノをコナシテ孔子ト人ヲ孔子ハ仁ノをコナ
ハ前代ヨリ耳聞シシ字ニテ卑クシノ世ナリトナリ
コナラシム仁ノ字ニ二人ノ喜ミテ人ノ他ニ許スル
作テ意味し古字ニ人ト書セリ又エトモ書シテ
し民元の後ニ知れ夫婦ニ人ノ義ナリ人ノ根本
即ちトナリ喜ミノ字トナリ
中庸道徳の代ハ他ノ賢者單辱國之所ナリトナリ
テ各自自信ス新ナ行フ時ナキ仁ノ時ナキ至
リテ斯ノ時ニ彼我掩定スル孔子ト人ヲ孔子ハ仁ノをコナ
ルニ徳具折后テ世間的ニ事ヲ清クトセリ

舞好ニ道德ニ一切自由ノ意ヲ遂ニシ仁の時
代ハ已シノ行ノ為メニ生レシ事ヲ自カラ目ツ様ナリ
先王ノ山ニ仁ヲ表シテ驛シテ舜及禹ノ世
龍結ニテ天位ニ即キ且猶ホモ已シノ子孫ニ世教
ヲ傳ヘシトシテ巧ニ清化ヲ筆結シテ殷モ然リ
周初ニ及リテ仁ヲ着板トシテ孔子
ハ文王ヲ目的トシテ周室ヲ統ケトセシカ故ニ仁
ヲ盛ニト述ビシナリ

孔子ハ聖人下テ法ハ常ニ教學上ニ涉ル中ニ用ヒテ治国平
天下ノ道ニ先王九法ヲ用タリ先王ハ文王ヲ格スニテ
孔子ノ仁ヲ及ヤ主トシテ文王ノ仁ヲ躰セシナリ
仁ハ如クハ夏禹殷湯ナリ故ニ之ヲ併セテ見ルナリ

次ニ文王ヨリ下テ武王ニ至テハ仁ヲ行ハズ大英断クテ人々ノ
離散ヒサシク生レテ直ニ木主ヲ執セ父ノ遺命ナリト様シ
テ殷ヲ亡セリ故ニ武王ノ行ヒテ所ハ義ト稱スナリ夫ノ
夷齊ノ如キハ文王ノ瞞着手段ニ筆結セシモ夫ノ
以テ文王ニ奉ル本意ヲ知ラズ武王ノ行ヒテ文王ト異ナリ
見テ之ヲ諫メシナリ大ニ望ニ至リテハ已ニ之ヲ看破
シ居リシナリ

義トシテ文字ニ羊ナリ支那古代ニ羊ヲ養ヒキモ
トモテ故ニ美トカ善トカイノ字ニ羊ナリナリ義
ハ即チ我ラシ美ニルノ意ナリ又宜ニ通ス見計ナリ
ナシテ即盛リルノ意ナリ夫ノ陳平ノ肉ヲ欲フナリ
トモテ羊ニ平均ニ分ツノ謂ナリ又侯伯子男ノ爵

位ニヨリテ印リ盛リ室トノ謂チ我ニ要ニハ機
臨ヲ變テノ意ト云ム

周宋ノ學者ハ儒ヲ云テ仙ヲ解シ元明清ノ學者ハ
仙ヲ云テ儒ヲ解シヤリ

夫ノ兵家ノ始メニ周處女ノ始メニ股也ノ如シト
イハレ仁ト義トノ介ジメヤリ故ニ仁義ヲ善用スルハ

王道也ト云ハシ義ニノ仁トイハレ仁義ヲ善道ト云
孔子周家ノ政畧ノ元所ト云ハレ能ク知リテ知レ直説

ト云ハレ仁ヲ説クニ不都合スルヤ幸ニ後ク人ニ世ニシ
トシヤリ

禮ハ神ト世物トイヒテ其命ヲ下ニ履行スル意ニテ古文
禮ナリ昂豆(タカキ)ノ上ニ血ヲ載セ神ト降ルテ上意

ヲ得テ下ニ示スノ意トイ故ニ古人ハ礼ニ履チト訓ヤ
ル意ハ礼ハ異族ヲ結ぶ事ト云テ周家ノ初ニ政畧ヲ行セシヤ

知ハ家文知ニシテ口ノ矢ニ从リ一言既ク人ノ肺腑ヲ
刺スル矢知シトノ意トイ周初ニ礼時代ニシテ周

末ニ知時ナリ由初ニ教血族ト云テ(交)ナリニ政
畧ヲ以テ人倫ト云テ血族ト云テ(ト)ト云テ(ト)ト云テ却

テ血教ノ血族ト云テ(ト)ト云テ(ト)ト云テ(ト)ト云テ却
人氏ニ更ニ王命ニ卦カサレテ諸多メノ學者起リテ何シ

ノ政畧ヲ以テ之ヲ統制スルヤ立論シテ又カク
ニ議論ヲ開ク中ニ(漸)ニ實際ト屬スル理ヲ論ヤ

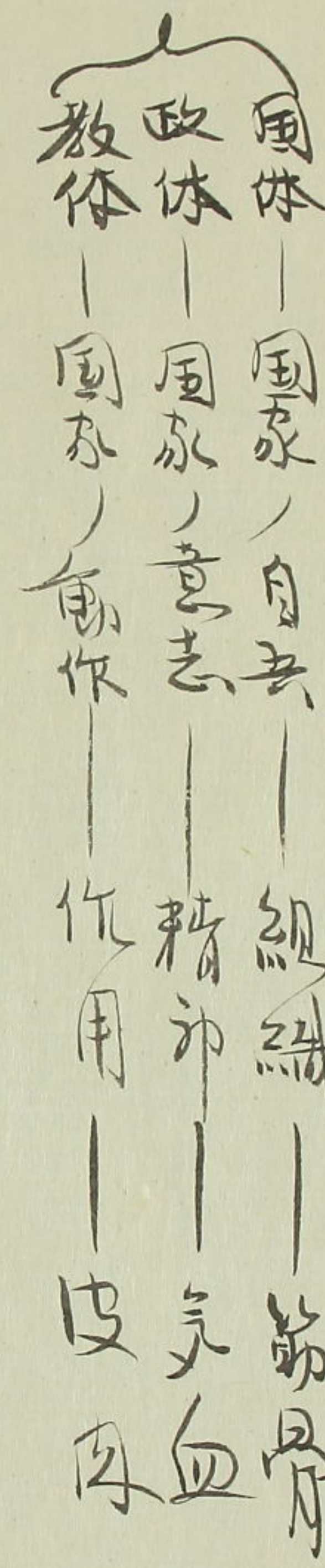
リ(論)ニ致セテ(賦)ニテ世外ニ超然ト云テ(ト)ト云テ(ト)ト云テ

リ(論)ニ致セテ(賦)ニテ世外ニ超然ト云テ(ト)ト云テ(ト)ト云テ

モノアハニ平ラリテリ後代併記入ルトモニ以凡モ起リタレ
トモ軍ニ理淨上ノリテ國末ノニ實際ニ處ニテセシタ
ル結果ナリ

信ハ漢代ニ行ヒシタモノナリ

支那ニシテハ道德ト人ト神トノ間際ヲイヒ人ト人トノ間ヲイ
仁義トイフリ然レニ今レ人ト神トノ間ヲ言フニ
トモ民人ト人トノ間ヲ道德トイフニ誤シ
支那政治ノ要訣ニテハ國體、政體、教體ニテ
之ヲ圖示セバ如キ關係アリ



けら者ニ事ニ相應セザルカハ然レシモ周末ノ學者等
ハ行々國體ノ代ニヨリテ變ニテ知ラズ
之ニ適シシ人 政ニ及ラズテ布カシトニシテ
ノ其況ニ美ナシト傳フニモ多ク且國體ニ
適シシ人モ多ク今或ハ右ノ關係ヲ實際ニ定セバ
國ノ如キニナリ

國體
政體
教體
五帝時代
周初
周末
貴族共和
王政
覇政
知
道德
仁義礼
ノ如シカリ支那ニシテ國體ノ變ニテ定ラズル者ニ祖
父ヲ祖述シ之ヲ顯示トシテ自來ノ政若ク布クノ風

アノケリテ、政、文、トイフ、之レテ、祭、政、教、トイフ、祭
ノ字ハ、然レテ、内ヲ右ニ、捧ケテ、神ヲ祭リ、其、暉、亦、下
ニ、布、而、之、ノ、意、ナリ、政、ノ、字、ハ、正、文、ナリ、以、文、正、之、ナリ
表、面、的、ニ、法、律、ト、シ、近、シ、ム、ナリ、教、ノ、字、ハ、孝、文、ナリ、孝
ハ、順、ナリ、文、ハ、順、ナリ、之、レ、意、ニ、テ、裏、面、的、ニ、其、政、体、ニ、適
順、人、物、ト、ス、ノ、謂、ナリ

○周初ノ文字

周初ノ文字ニ、於テ、見、ル、キ、モ、ハ、只、易、ノ、文、王、ノ、六、十、四、卦、ハ、
之、以、外、ニ、ハ、文、字、ニ、見、ル、コト、モ、ナシ、次、ニ、周、云、ノ、象、象、ニ、
擊、碎、リ、孔、子、ハ、只、レ、一、ニ、傳、セ、シ、マ、テ、孔、ノ、擊、碎、ト、ス、
ハ、非、ナリ
易、ノ、乾、坤、ノ、二、卦、ヨリ、文、字、ヲ、製、出、セ、リ、例、ハ、乾、三、卦、ヲ

縦、線、ニ、テ、一、貫、シ、天、地、人、ニ、通、ス、ル、道、ヲ、有、ル、我、ト、シ、テ、
王、ノ、意、ト、モ、シ、カ、如、シ

卦、ヲ、有、テ、六、条、ト、シ、ハ、孔、子、ノ、說、卦、ニ、見、ル、天、ニ、陰、陽、ノ、
地、ニ、柔、剛、ノ、人、ニ、仁、義、ノ、之、レ、卦、ニ、六、卦、ハ、所、以、ナリ、ト
之、易、ハ、周、初、太、ト、之、易、カ、一、曰、連、山、二、曰、歸、徳、三、曰、周、易、ト、
而、之、テ、周、末、ヲ、基、本、ト、シ、テ、上、古、中、古、ニ、分、テ、言、ハ、ル

上古
八卦
連山
歸徳
伏犧ノ作リタルモ

中世
連山
歸徳
夏、古、中、古、之、ヲ、奉、ス
殷、人、之、ヲ、奉、ス
後、易、又、ハ、周、易、ト、ス

易字上古之易作一中古之易其結三行して
易後ノ八卦即易字ラセシムモノナラズ
之字史ニハ易ノ始マラズ
易トカクニ所以ハ参同契ノ要旨ニハ況ニハ八卦ノ
方一卦ハ乾卦即三三ハ伏象ヲ見シハ六五四三ニ即チ
復奇偶奇偶奇即三三ナリ即水火ナリ故ニ又月日ナリ
シテ利ヲ文ニ下ニ教フルモノナリ故ニ日月ナリ
ニ字ヲ合シテ易トスナリト
卦ニ文字入ル周ニ始ルニ此行成曰連山者天易ノ歸
蔵者地易有法教ヲ未ナキ由易者人易カ始有
書ト
周易ハ卦ニ点ク姚信曰連山ハ得而因夏人因之曰

連山、瑯琊、得而因、般人因之曰瑯琊、伏羲氏
得而因、周人因之曰周易トケテ文ノ
易ノ定ニ義ハ多様ナリ、易緯、稽覽度、曰ノ易ノ名
合ニ義ノ所謂、易也、變易也、不易也、トクニ名シカ如
シ、其義ヲ碎クハ、變易トハ形而下ノ物象ニ就テ曰
ナリ、不易トハ形而上ノ實體ニ就テ曰フナリ、之ヲ結テ
易ト云、易形而上、下ト別ツモ、其義ハ有テ、其義
見、ト云、易簡モノナリト、吾々、朱子ナドノ況
ニ、易ハ交易ノ意ナリト云フ
管仲、管仲ノ事、及ニ此ニ入テ、其時、代ナリ、言ス
ル、周ノ懿王ノ時、衰ノ初メナリ、之ニシテ、王化下ニ
行ハシメ、ルモ、其時、衰ノ初メ、先ニ詩ノ周南、召

南ノ正風止テ夏風ノ起リテ見テモ知シ、下テ
十ニ代平王ニ及テ全ク王権他ニ墮キ、并楚、秦、晋
ノ諸侯風強大トナリ、更ニ下テ十七世昭王ノ時カ
即チ齊桓公ノ時ニシテ王家ニ有クテモ、下カ如ク
桓公天下ニ西朝アリシテ、爰仲ノ輔チ、桓公ガ
執ルニ、乘シテ王座ヲモ乗ルシ、カカリシ、及チ齊ノ
爰仲アリシカ、爲メテ、爰仲礼ヲ祀テ之ヲ傳メシテ
爰仲ノ書ト稱ス、爰子ノ爰仲ノ年ニ成リシ、アラス
不明アリ、其文ノ古代モ、アラス、及チ彼ノ歴史ニ決
シテ書ク著ク、余暇アリシ、二事ニ坐シテモ知
ル、爰子ハ十六篇ノ世ニアル、其見、初メハ
ハ漢書藝文志ニ、劉向校定管子八十六篇トアリ

爰子ニ直ニ却リ、經言ノ、カ本来ノ書ニシテ其他
ハ偽撰トシ、宋ノ葉遂ノ説下リ、元來ハ種ノ書ヲ
偽撰トシ、有喜ガ偽也トシ、ホトシ、之ヲ奉テ、
徒ノ老ニシテ、カ自然ニ、文体ナド、ノ本、其ニ、依リ、後
世、淫テ、本、書ト、同、一、視、之、ハ、ニ、至、リ、シ、モ、ノ、多、ク、シ、爰、子、ノ
如キニ、楚、シ、テ、今、且、シ、葉、遂、ノ、説、ニ、從、ヒ、解、之、ノ、ハ、爰、
子、ノ、自、撰、ト、シ、モ、其、又、中、決、シ、テ、孔、子、之、前、ノ、書、ニ、
アラス、証、アル、シ、テ、其、國、末、ノ、字、者、カ、カ、リ、テ、偽、作
カシ、モ、ナシ、レ、司、馬、遷、カ、史、記、ニ、其、書、因、而、易、行、ト、又、
因、焉、而、成、禍、轉、敗、ヲ、成、印、ト、アリ、之、爰、子、ト、稱、ス、
其、子、ノ、因、リ、テ、ハ、アラス、列、子、ノ、因、リ、テ、ハ、
ハ、實、ニ、楚、ノ、シ、テ、(因、ト、ス、字、ハ、依、ト、カ、
桓、ト、カ、ラ、ウ、事、ト、殊、ナ、リ、

向の事ヲ幸ヒノ概念トシ之付テ入りテ已レノ事ヲ行フ
ノ場合ニ用テ下リ其他互仲ノ事ヲ教ルレノ者ハ
滄子也、~~其~~之爭傳、有付トナリ一學ニレニ及子
ノ書中經言及内外ノ節ガテハ其意ニ取レキモ
直以下ノ句ノ拾フ、モモノ人ノし

次、晏子春秋ナリ

次、墨子ナリ其書中「子禽問曰多言有益乎墨
子曰蝦蟆蛙蟪日夜而鳴舌乾、楫然不聽、今鶩雞
以夜而鳴、天下振動、多言何益、唯其言之時也」
如干法ア、~~子~~モモノ墨子、蓋シ孔子ガ代ノ人ナレ
何ナリ然レニ魯ノ陽文君ト評活ルノ者若ク知伯
ノ事アリ之々之レノ案ノ如キ、~~戰~~國時代ノ人トナリ

能ワレノ者アリ之し思フ、後者ハ後人ノ附会也
モ、~~ミ~~ミテ前者ヲ真ノ墨子ノ言トスルカ至者ナレシ
墨子ノ書今也、行レモ凡テ七十一節ト稱ス其内十
八節ハ二節カノレテ經上經下ノ二節、墨子ノ本
書ニシテ經說節トトク之ガ說明トシテ後人門弟子
等ノ加レモノナレシ

墨子ノ說ト云ハ、~~其~~誰モ知レ所ナリ其墨子
所ハ、~~其~~自其ノ為王ノ道ニレカ如シ

墨子ノ書中、~~公~~孟子曰、~~公~~富壽夭、~~誰~~誰
然在天不可損益、又曰、夫子之學、子墨子曰、~~教~~教人學
而執有命、是猶令人葆而去其冠也、~~如~~如キ、~~所~~所
謂、~~天~~天明鬼ノ說ヲ、~~其~~其輝也、~~モ~~モノナリ、~~今~~今其ナレ

中令句ノ獨心、甘瓜苦蒂、天下物無全美、君子
服美則益致、小人服美則益驕、非無安居也、我
無安也、非無足財也、我無足心也、去不遠者、知
不遠、言不信者、行不果、子墨子曰、實者善人、誠
不知、譬若良玉、起而不出、有余精、譬若美女、
起而不出、人爭求之、行而自街、人莫知取也、墨子
子曰、南子、獨立不斲、于影、時不可及、見不可由
子、向了、今其甚矣、況見之不足、一節、奉心
昔者昔之云、好士之要衣、故文之臣、皆解羊之裘、
韋以帶、劍紳、昂之冠、入以見於夫、出以踐朝、
是身故何也、夫源之故、臣為之也、昔者楚靈王好
士細腰、羣王之臣、皆以一飯為節、脈是然後帶、

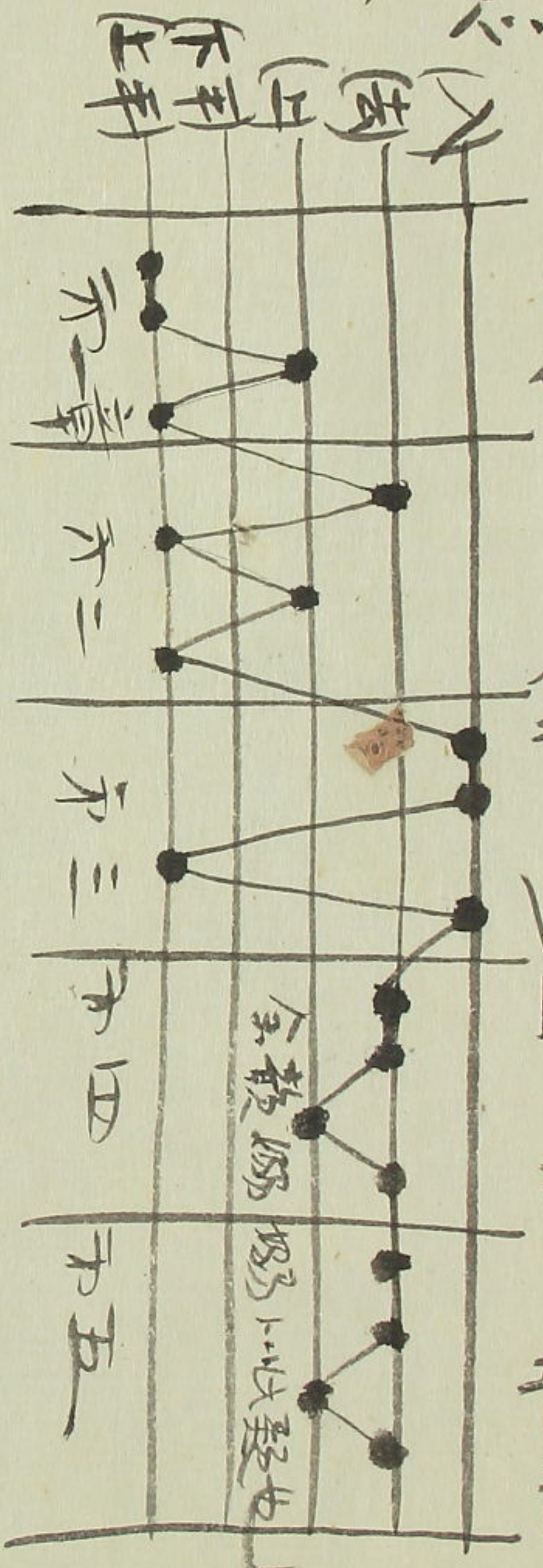
扶牆然後起、以期年有、望里之危、是身故何也、君況
之故、臣能之也、昔者越王勾踐、好士之勇、教訓其臣、和合
之、焚舟失火、滅其士曰、越國之室、冬在火、越王自斲
其士而進之、士南越、齧碎、行踐大而死、若夫石方
人有余、越王擊金而退之、是故子墨子曰、乃若天少
食、雲衣、殺身而為名、以天下百姓之所皆難也、若苟
其況之、則衆能為之、况難相善也、交相利、共以與也、
又其ノ薄天也、思ノ後ノ一節、ヲ奉、心、鬼沖之、明智
於聖人、猶聽耳、明目之、無聲、靜也、ノ如キ、之、下
次、孔子、孔子、學問性、竹、孟子、孟子、所謂、集大成
者、ナリ、何、何、祖述、之、ト、云、ク、ア、云、ク、テ、博、ク、學、ヒ、得、ル、多、
、學、子、得、ル、自、己、之、ヲ、大、成、之、ル、ニ、ア、リ、又、孔子、ノ、教、育、ノ

(知字) 用此二或正焉。固也。如矣。ノ月リ
心猿意馬ノ法ノ在るヲ聞ク。觀經(前果)故
心猿意馬五粒樹ト又曰ク午輝林居士ノ傳
ノ詩曰ク猿意ノ神肉意ノ馬行ト又深簡
文帝詩并王勃ノ龍樓寺碑并見心猿意馬ノ字
書經古今ノ西文アリ。今文ト漢ノ景帝ノ中秦二世
ノ博士清南ノ伏勝九十余才ヲ以テ口ヲ傳フ
所ニ十八節(即今文ノ二節ナリ)古文ト安國ノ祖
子善及秦ノ法ノ峻急人ヲ以テ墜ス其家書ヲ夜
ス意帝ノ子魯ノ共王孔也ノ壁中ニ在リ子善
ノ書即今文ノ外ニ竹子史ト比ニ用逸礼ト九
節ノ得テ一終尼命ト巫盛ノ事アリ。傳ヒテ字

官ニ立タズ後晋ノ永嘉ノ乱シ七ノ(漢書劉歆傳)
儒林村臨臨難志(信古文ト東晋ノ時梅賾力上
秦ノ一ノ行ハシムルノ即今ノ古文尚書ナリ今ノ
尚書ハ五十八節アリ。今文ナリ多クナリ。古五節ナリ
詩ニ三義アリト云フト毛氏實ハ之体ニ用テ即今ノ
比類真ノ詩ノ体ニシテ風雅頌ノ詩ノ用ナリ
詩経ヲ傳ヘシハ三卷アリ。魯ニ申云。齊ト韓國
燕ト韓生之ナリ。然レ今ノ傳ハ古今ノ傳ハ一也。毛
毛世長ノナリ。毛氏古師ノ更ニ若ク子夏ノ徒ニ更
々子夏ノ孔門中ナリ。毛詩ニ通シ人ナリ
詩ノ序アリ。序ト大序ト小序トナリ。又序ト者句ト
稱ニモナリ。傳ハ其ノ青句ノ子夏ノ法ト本序

ハ子る夏毛長、衛教仲ノ合作也、
 詩ニ於テモモ能ク周家政畧ノ所ヲ示ス、
 二南ノ詩
 如クハナシテ

工る箏中ノ多ク、音ノ最モ高キモノ即初ノ音ニ
 比シテ、主音ヲ歸格セシム、又希ク最モ弱キモノニシテ、
 寓スルノフンモ之ニ垂倒ナリ、今夜ノ國難ノ待テ龍漢
 合シテ六ト六ト
 下ノ如クナ
 しノ



大正二年四月

一月廿八日

郷里庭園お先子

近世小説史

島お生

近世の歴史

俗文学の起源

近世俗文学の大成せしは近松門左衛門井原西鶴の輩が先づか
 以て記原ト云ふし而して近松出づ西鶴出づして三つりし
 朝野草子モサ
 此の研究セザルカガズ即チ本史ニ於テハ凡ソ慶長年
 度より慶
 應ノ末マテノ間ノ事ヲ論ズルモノト知ルべし慶長寛永ノ際徳川
 ノ天下漸ク已ニ偃武太平ノ趣キヲナシタリ天運漸ク興起
 ノ勢ヲ呈シテ而シテ實ニ我國民文子トシテ一大奇蹟トシテ
 彼
 明ノ間ニテハ後水尾天皇ガハ後ヲモリシ玉トシテ一
 事ヲ其書ニ題シ
 テ蝴蝶トイフ其文体トイフ其趣向トイフ此ノ所製ニ相違ナ
 カラズ
 天皇ハ慶長十七年ノ所即位ニテ款ハ勿論書出カ
 後水尾院崩レ御
 元一版ヲ出リシ程ニテ政壇上ニモ心ヲ置カセリ
 常ニ三代將軍ノ英物
 ナルヲ希被シ
 旺京都ニテ家足江平ニテ日本ハ泰平トシテ

語ヲ出サシトカ前ノ蝴蝶ノ趣向ハ 蝴蝶トイハルセガ凡流ヲ愛シテ
男子ニ見ユルコトヲ帝ニ多クノ花ヲ集メテ果シシ一夜其花ノ散
ハナノ散リシヲ見ラ大ニ世無常ヲ悟リ 剃髪シテ山ニ庵ヲ結ヒ行
ヒ燈ヲロシニ一夜數多ノ女ガ統々其庵ニ来リテ 戯ラ聞カシメシ
ヒ其ハ臨シテ各一語ヲノ 歌ヲ流シテ其本性ヲ明カシテリテ
以婦人等コソ 蝴蝶ガ日ほ愛セシ花ヲノ 精華ヲシトイフコトヲ 44本
スラ猶教ヘテ聞カズ得度ニシテ 如クマシテ人向クモシヤトノ 主意ナリ
其文体ハハ國文ノ初俗集ニ 近キモノニシテ 或ハ博識近世俗文学ノ初
端ニ置クニ如クアノカマレ氏ガ時世ノ上ノ 通俗ガ果シテ此ノ近キ
モノナリシト云ハ勿論之ヲ 俗文学ノ 發源ニ置キテ蓋シテハ 一事ニ暫
ク後考ラ後ツトシテハ 一ツノ 考完スキニハハ説ガ支那ノ説ノ 翻訳
ニアツルカノ 巨テ 百川學海ノ 雜種ノ 文ヲ集メタル 書ニ 崖玄
傲トカイハル人ガ 花ヲ愛セシコトヲ 花精見シテ凡流ヲ流シ一詩ヲ 44
テチリシトイフニ其趣向ナカク置カサルニ 奇トシクハ 若シ後水尾
院ガ以テ後ヲ決セシシモトスルハ 當時已ニ 百川學海ノ 書ニ 渡来シ
居リシハカニズ 然ルニ以テ 百川學海ノ 清和ノ 編ニシテ 當時早リ已ニ
本ニ 追モ 廣マシ居リシトハ 信ニツカラス 百川學海 或ハ 蝴蝶ニ 前後シテ
出来ヤシヤモ知ルカニ 凡流ノ 著シ 蝴蝶ノ 書ヲ 後水尾ノ 天皇ノ 脚
親製トシシ 江上ハ 其趣向モ亦 却テ 剽始ニ 掣カレリ 余ハ 支那ノ
後ト 符合セシモノト云フノ 外ニ 江上ハ 天皇ノ 脚製トイフヲ 持ニ
詳説セシガ 其他ハ 時代ニ 著者不明ノ 書トモ 異ナカズ サレドモ 昔
通ニ 我國 俗文 道ニ 後ノ 発端ニ 彼ノ 烟山 箕山ノ 色道 大鏡ト
稱スル 書ニ 歸スル 此書トハ 説トイフハ 非ニシテ 唯ハ 女場ノ 事ヲ 書キ 集
メタル 俗文体ノ 書ナリ 箕山ニ 十幾歳ニシテ 六十 左右ニ 至ルニテ 流國ヲ
帝歴シテ 實際ニシテ 書キ ンルナリ

俗文学の流統

前段に述べる大鏡よりして彼ノ西鶴ノ好色小説の如きものも
 思ひに從つたしものハ文字屋直碓一風ヲ出したり先ツ之ヲ好色小説
 トテモ名付ケ置カレシ又々寛永板ノ清水物語ト稱スル書ハ如キハ
 僧侶ノ手ニ成俵^{セバシ}世上ノ俗流ヲ集メ其しもの勸善懲惡因果
 ノ理ヲ示シタリ之ヲ~~世間常~~因果應報的ノ小説ト云フ
 又ハ之ヲカバ合ハ前ノ色道小説ヲセリ前ノ榮^イテ早ク衰ハタリ
 之ヲ名ケテ宗教小説トモ云フ方ハ此ニ有テ京都ニ儒者が儒書
 ヲ知ケテ俗目ハ入ラシメテ心ヲ論^ハ西ノ書ニ實例ヲ取リテソシトハ
 言ハスに面白ク書キテタルモノ出テテ後ノ馬琴ヲトドノ大依ノ出テシ
 ハソソリ之ハ皇ト云ハシヤ疑ハシ之ヲ儒者ノ後トイフハ此ノ
 意ハ~~道中~~道中記ヲ依リテ世評ヲ博シタリ更ニ倍後佳話
 ヲ集録シ又ハ新々ニ依リ物ヲ出セシハ^{シテ}ハ小説ト稱スルニ
 其他も何れ戯曲ノ萌芽モ已ニ見エシ居リテ二段統ナドモノ

アリタリ然レシハ際ニ有テテ幸ハ哉彼ノ俳諧ノ起リテ大ニハ
 後文學ニカラシ深クハ^ハ近アリテ連歌ト稱セシモノハ歌ノ変体
 ソレ迄ナド且ツ前ノ句ニ言フコトヲ後句ニ解リ位ノ事ナリシハ俳諧
 起リテハ其範圍廣ク前句ノ意ヲ包シモ後句ノ統クヲ要セ
 る後句ハ自由ニ奇想ヲ外ス落チ来シ底ノモノヲ前句ニ包キテ
 之ヲ完全ニスルナド大ニ文才縦横ノ余地ヲ与ヘテ亦々
 前後句ノ間ニ説明挿ノモノヲ書クコトヲ起リテ之ヲ近^クシクテ
 後ニ一篇ノ文章トナスニ至リ文章ヲ練ルノ地ヲ作リたり
 後ケノ小説家ガ多クハ一ツハ俳諧ノ門ヲクバレルモノ之ニ由ラズンバ
 アラズハ此ハ江戸ハッガ左マテナラリシニ京都ニ一面ニ儒學者アリ
 一面ニ空因學ノ俳諧起リテ調和シテ俗文學ヲ化成スルニ至ル
 ノ基ヲサセリ以上藝統ノ外發達セラルカガ因ケル地ニリヤカク説
 達ラナシ得ヤリシモノニアリハ落語之ニテ落語ナシモノノ趣味

アハハ言フコトモヤハシシテ也然文学ノ根要部分ヲ占ムに至リ居ル也
夫レ其然ラズシテ余ノ小説ノ範囲ヲ定ムル所ナリ若シテ其ノ元祖トモイフ
キハ彼博文学(九州博ヲ一時文学界出ル所)家ノ一人也常呂
初新左門ヲ常呂利ガ書キ、童坊トテ巧ニ詭譎ノ弁ヲ弄シ
殆ト秀吉ヲ縦テ横テ思弄シ其ノ様ハ支那ノ東方朔ナリト
モ勝リテ考ヘラレ氏實際サテ六アラナリシテ今世行ル南
呂利ノ物語リハ其ノ多ク支那ノ治ニテ骨髄ニテマシテ夫
大同政訖ナドイモト同(ナリ)空兵鬼ノ角一種ノ芥人ナリシ人
相違ナリ其ノ名也ラテハ其ノ秀吉ノ機縁ヲ取り一言ニテ人
ノ慍ヲモ解スノ難ヲ纏ヒ大事ヲ未タシトモ多ク常呂利
ト解ス其名也其ノ常呂利ニエテ刀室師トテ其靴ノ出處ガ
貝合ヨリシテソリト被テソリト納メト意ヲ来リタルナリ
呂利ニ純テエテ愛ケ継グキモノ起ラレ久シトモ殆ト常呂利ト
前後ニテ茶人ニ安樂庵榮傳ナル人出テリトテ亦ク流瀆ヲ軌
リシヤリ常呂利ノ方ニ下申シテ却問的ナリ出鱈目ナリ榮傳ノ
方ニ學問アリ其テ根拠ヲ確シリシヤリトテ其ノ慶長元和ノ時代ノ人
ナリ其書アリ醒醉安ヲトテ洞識ノ意ヲ寓スル俾カシ元来
トテ茶人ナリトテ大ニ宗匠トテ書シタリトテ茶人ノ角ニ至ラ究居テ
モ其ヲ其席ニ簡潔ナリ若シテ治忠大ニ人ヲ樂コシキナリ今
一創ヲ茶人トシテ自學問ノ意氣過リモノヲ試ムル所ニ或ハ田舎人ノ京
ニ出テ或ハ茶人トテ茶ヲ乞ヒシトテ其身家ノ主人家人ノ茶ヲ紅葉トテニテ持テ来
ヨト命シタリ田舎使ハ怪ニ何故ヤト問ヒシトテ主人ハ女也ニシ
トテ茶ヲ濃カ善カトテ(紅葉)トテ持テ来ヨトノ意ヲトイヒシヨリ
早速田舎人ト命セシト家人ノ意ヲ解セズ其故ノ向テ田舎使得テトシテ
善カトテ茶ヲ濃カ善カトテ来シトテトテトシ

中

カノ榮傳ノ後二十年ヲ経テ京都、露ノ五郎兵衛たんもノ
出ラシメ此ノ新調述義ノ類ニシテ申モ文学部ノ入ルコトモ
其術匠客ヲ集メヤ種々ノ判じ物トシテ并テ之ヲ著書ニ解カシメ
能ハシムルモノノ料ヲ取ラテ之ヲ説明シ聞カセテモ例ノハ
(四)ヲ解キテ曰ハハ半直昂キ岩井半田郎ト云フ俳優ノ若
トモノ類之ヲ露ノ夜活トシテ申アリト云フ、五郎兵衛ト同時代
ニ江戸ノ鹿野武左門アリ麻ノ巻筆ノ書キ著スニハ身
命ヨカリシヨリ五郎兵衛ノ如ク述義ニセリシテ往々淫文ナド
ヲ文字リテ詔料トセシナドハ登壇シテハ天晴ノ文学トカ
リシト云フ、以上ノ如ク 著述ノ文学ノ範囲ヲ云フハ、抑モ何カ
故ニカト攻メシメシ著述ノ清和師ノ範囲ニ卷キ込コラハ云フナリ
物々今亦シテ二三ノ著述ノ人ヲ尖セタリト云フ、傳述ニテ清和
師一昨ノ専門トナリシヨリ文学界ニ度外視ワレニ至リシナリ、(五)

ハ日本ノ近世ノ後ニ時代物ノ出版ノ晚ナリシト云フ、元来ノ後、物々
ニ及ズ先ノ大家がキテ歴史ニ着ケテ之ヲ著述シテ作り出シモノモ
之ニ及シテ菫園ノ瑠花瑠花先ニ著述シテハ何ノ故ニカ思フニ之亦彼
ノ清和師ニ先取リセシモノが故ナリト云フ、在り太平記流ニナド大ニ流行
コト後ニ之ニ言及スルニ加テ面白ク後キ聞カセシヨリ歴史ヲ手近ク聞
カニハ清和師ノ本方トナリ文学ノ方ヲ遠カリシナリ而シテ已シ文学ノ
ナキムガ荒方ノ節書ヲ時代物的ニ扱ヒテ、清和師ノ後、清和師
ノ口辨ニテ能ク之ニ申シ付シ及テ衣セテ洗キシモノナドハ大ニ其勢ヲ
助ケタリト云フ、人乾押坊良哉(?)、如キハ、 起久ノ今日ノ
清和師ノ述義ニ多クハ人ノ出ラシムルナリト云フ
前キニ俳優ノ俗文学起リシヨリ云ヒしが現ニ其角、東国太郎ト云フ
小説ヲリトナリ、其他ニ及ノ俳優師ニ大抵之ナリ 後チ下テ
天和ハハ俳優ト俗文学ノ關係一変シテ俳優トハ今ノ綴ヲ断チ

ラ狂歌ト俾縁ヲ結ビテ 狂歌師トシテ小波家ト云々ナク小波及ミシテ
狂歌ノ門ヲクテナキ有様トナリ手柄同持、留之、如キハ其ノ
志ハモノナリ 特ニ手柄同持ハ江戸小波ノ鼻祖ト云フモ不可ナシ之
ノ如ク狂歌ヲウシテ小波ヲ進ミシハ俳諧ノト同シ判詞ナドモウシ文ヲ鍊
リシモナリ之レ何故ニカクモ特ニヤト考ルルニ凡テ事物ガ
新ラシキハ其ノ種ヲ新鮮ノ考案モ湧出スルモナリ田々ナリト撰
池ニテ活キテ夫レモナリト云フ 運無ガ俳諧ニ変テ新ラシキ
際ニテモ小波ナクシテハ其ノ趣ニ由ラサルニ経テ老蒼ニシテ恰カモ
狂歌ノ起ルルニ由ルニ之ニ移リテ小波ガ出テシニ由ルナリ

海世草子ノ教達ノ由来

小説ノ主人公ノ事ニ就テ考ルルニ此ハ世説源ガ物語ノ如キハ明カト源
氏身ノ自身ガ物語ノ主人公トナリ居シモ近世ノ世説ノ如キハ西
鶴ノ海世草子ナドニ更テ主人公ト目スルモノナリ近世ノ世説ノ人

物ノ性質ナドハ其ノモノナリ單ク 世間ノ出来事ヲ簡潔ノ筆ヲ

以テ新清穿テ的ニ記述シタルモノト云フニシテ其ノ西鶴ノ祖
師トシテ其ノ子トモイフニ近松門左衛門ニ至リテ大ニ主人公ト見シ
人物モ見シ首尾一貫ノモノヲ出スニ至リテモ近松ノ直ノ小説
ニヤリシテ幾分カ筋文ニ近キガ故ニ之ヲ際キテ云フハ其ノ時代
サシ後シテ夫ノ江島屋其蹟アリト如ク世説ノ本體ヲナリト云
フニカ目録ハ大ニ西鶴ノ崇拜シテ其文脈ヲドラモ取リ其
シキハ向テ西鶴見マシモノニ繼キ足シラシテ出スナドセシ人ナカ
之ト同時ニ早クモ西鶴ノ欠長島ナリ人物トカ筋ヲ通シトカシテナ
キヲ若破シテハ其ノ近松ノ取リテ西鶴ノ筆ト近松想トナ
融和混成セシモノナリ 西鶴ヲ皮トシ近松ヲ骨トシタルモノナリ
但し西鶴ハ其ノ時代ガ考ル所ノ故ハ後ノ表モ幾分ノ變遷ヲ
目録ノ上ニ見シ居ルノ物語ナリ 以上ノ如キナルニテ思フニ着眼

ノ其れを其礎を西鶴ノ上ニアリトシテし而して其礎が主人云ト
之所ノ人物が如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
同ノ人物が如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
脱胎ニ来リて其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
範圍ノ内ニ居テ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
大魚也ト云フナリ及シテ漫然近松ノ祖トモシテ流リテ今其
礎ノ主人云フ洋本セシトモ近松ノ主人云フ洋本セシトモ流リテ今其
近松ハ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
リシモノトシテ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
ノモノトシテ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
割リ出シテ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
これハ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
其レトシテ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
内ヲ甘ク互ニ對シテ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
彼レノ主人云フ常ニ持テシテ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
身モヨモアリスルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
地ニ在リテ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
佳ナシク其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
近松ハ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
礎也、之ヲ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
述セシテ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
之レ也

作者ノ人物

元禄前後ヨリハ俗文ニシテ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ
之多クハ俗名文字ヲ以テ其ノ如何ナルモノナルカト見レテ其ノ自身ノ変体化現ニ返キテ

いっし正雪三平家物語評判ノ著りしもの 然氏女書今自ア
ヲ見ハたマテノモノニアラズ感曰ク けき正雪が味アリシ 甚ノ学資
ノ一傳ノ依リシモノナリト、其他ケ時代ニ一傳浪人ノ取締カ散
ナリシヨリ益ハ以テノ浪人ノ文職ニ向シヨリシナリト、
ハ全ク浪人ナガシマナリシト、
錦文伝、都の錦、ノ二人ノ作也アリ、
人ナリト思ヒ居リシ氏 全ク別人ナリシト、
ノ二人ナリト思ヒ居リシ氏 全ク別人ナリシト、
澤一風、又兼木宗輔ト兼木本セリナリト、
人ナリト思ヒ居リシ氏 全ク別人ナリシト、
自安カ後ニ合作セシ、
テ著ルヲ也セシト、
ナリ 傳徳、口モ凡草山人モ言フ浪人ナリシト、
此所シモ戦国ナリト一旗挙クキモノナリシト、
リ世間ニ垂クノ情露シ居リ所アリ、
スバハ人ノ要道ニ強固ニ浪人肌ナリシト、
元祿角我、
官内サ輔、
大明神ノ神史ナリト、
ニ学ビ国学ヲ比村李吟ニ学ビ、
学ヒヨリ居ルニ、
前ニ学向ラテ、
ヨ依リテ、
ヨリ 助者セシ、
傳トナリテ、
以時、

近松、
明、
近松、
吾人モ同、
西、
錦、
浪、
江島、
多田、
式部、
浪人、
其書ニ自、
今都の錦ノ、
其作ニ有、
正室八年ノ、
名ヲ八田、
鎮守佐用、
伊東仁、
相資、
初、
一家、
和、
出、
取、
向、

事... 或ハ毎路... 徒然草... 神仏歌ノ三書
... 後キ方々チカシテ其傳字ヲ輝カシメテ... 階下ノ人ノ階
... 筆ニ見エ九ノ時江戸ニ出テ... 固ヨク然所ナキ字痕ハ
... ころ浪人取締ノ画後改ト役人布施孫兵衛ノ捕... 社
... 寺奉りノキヲ経ラ... 時ノ刑法ニ経テ遠島仰付ケル所
... 渡ノ銀山ニ送シ... 然レハ人カク字大モアリ又曰置直流ノ馬術
... 達ニ居リ... 佐後銀山ノ役人ノ愛セシ金堀リノ苦役ヲ
... ハ為ルニテ... 播チノ杉原ト称ス... 佐々草子
... 一余ノ可ニ残リシ... 書キナシクモ... 其来ニ本人ノ履歴ニ書キ
... 白キアリ... 中銀山ノ流人... 兵衛ト云フモノ
... 姫ノ所トアリ... 達セシヨリ... 遊幸ト云フ定メ野ノ山ニ入
... リテ... 後毎ノ水メレ度出テ... 思フ補縛セシ
... 嚴縛ノ下ニ日々僅カニ赤米一分ヲ給セ... 昔ノ腹痛アリ
... 於テ本人ノ運カニ背テ... 子ラシク... 既書シ書出シタリト云
... 以事ニテ書キテ終リ... 世ノ句ガ克キアハ後ノ... 知サレ氏多
... 分ケ俵ニテ扱カシム... 其生涯大ニ悲シキモノアリ其播磨物
... 原ヲ著ルヤ大ニ感テ見... 所アリ... 往事ヲ悔ヒテ父ノ姓ヲ
... 今更ニ身名棄レ分體シトテ... 実戸銭舟ト改名シタリト云
... 次ニ上田社成ノ履歴ヲ述ベシ... 元来ノ時代ニ幕府ノ集
... 東甚シクシテ... 諷刺的ノ戯作ヲシテモ... 多ク捕ヘシテ遠島
... 卜トモ... 有様ニテ夫ノ麻野勿左衛門(?)ノ如キ... 僅カ
... 馬ハ躍チ... 其語的ノモノヲ書キシテ直ニ遠島ニ遣
... 如ク時世ヲ... 作者トシテ... 根性ヲ振ヒテ...
... 何シ斯ク嚴チシモ... 拘うご一方ニ大ニ筆枝ケノ如キ様アリ
... 手相持ノ如キ... 隨方筆ヒトキ... 諷刺的ノ如ク... 昔来カ石通

たむちんモノリ)ヲ書キし元如何た元カ法綱ニ入ラズシテ併
シ多ク上田秋成(兼)モ且一人ニテ具文ニウラテ雅俗ヲ存畏シルモ
ノちえまは人ノ本領ハ和字ヲ用リ又其音曲筆死ノ流弊
モ幸シ居ラズトシテ其作癖物語ノ如キ白服ニテ世ノ字
者宗親家ナリトテ罵詈訛刺倒シシモノナリ今如ク博字ノ
人物が何故ニカク戯作者トナラセ世ニ比シヤテシヤルニ全
ク社会ヲ退ケテ世ニ違ヒテセシムル様ナリトモ
ノんヲ見シトシ人ノ著作ノ多ク後世ニ傳フニせんは人死
際ニモキリハモノヲ一切古井ノ中ニ埋メタリト申シ物ヲけ合
如何ナシテ爾クセキ退テシヤトシテ彼ノ本本又講釈
師ナドが語ル宗輝寺馬場内討ノ主人云ナリ郡山ノ藩士
生田傳八郎一実ニ秋成ノ父ナリしが故ナリハ決討正徳五年
十一月ナリト事ノ由来ヲ云スバ傳五郎が同藩士ト遠藤

宗右門ヲ討テ立退キ大坂ノリ師人丹波トモノ家隠シ
其中ニ河邊ノ達人ナリシヲ弟子ナリトモ出来追ニ警昌セシヨ
花屋ト稱ス揚屋ノ娘ト婚シテ没シテ即秋成ナリ
メ秋成が生シト年ニ恰カモ遠藤ノ兄ト弟トニ之仇討テ
二回ハ居リシニ解返シ馬場ノ相戦ニ然ルニ傳五郎
ノ弟子等師ノ敵ヲ遠殺シカケテ付シ具シト巴ヲ射スニ
敵ニモ付シ見氏師モ亦付シヨリ仍テ弟子等師ノ死体志
ヲ鞠シテ長厚川ニ流シテ水葬シヨリ然ルニ時ノ依者ナ
リカ討仇ノ物語然則シテ傳五郎ヲ折幸ノ男也トシ二
人ヲ遠矢ニカケルノ手取電シテト傳ハルニ其母其母モ
子カトテ世ノ人ヨリ擯斥セシナリ秋成ハ母ノキニ成長シ
母秋成ニ其事ヲ知テリシト臨終ニハ事ヲ聞キテヨリ大世
ヲ厭フ気ナリ家ヲ貯ハノア人任セラテ故郷ニ帰ルシ

之ニモ能キヲ後家味ノ本ヤテ書ヲ購ヒ長良川ノ
ニ隱遁シテ一切世ト絶交シ流書ニ味コヒテ送リシヨリ其由
ニ加存ラキトモトクニ會ヒテ之ヲ師トシテ和學ニカシメテ後京都
ニ移リテヨリシテ今ト伴蒿侯ノ外一切交ハシラズ其間ニ戲
作ヲナシテ世ヲ弄ビシヨリシテ今ト妻夫モ學ヲ老シシヨリ又秋
成ニ茶道ニ精ニシテ無膳物ト稱シテ煎茶ノ性ヲ創メ
祖先トシ

明治五年 十月 廿九日

曰 廿五年 二月 廿九日

英文学史 坪内逍遙 述

第七女性節即可憐温雅なモノハ例ハ公認シテ
 モテオカリアコレテリアナト云フ
 其ノ男女性ノ対照ノ著シキハ
 其時ノ劇ノ特徴ナリ (著者は極ニ格テフリスノ
 女ノ宮ト英吉
 利ノセ、意ト羽黒人所以ヲ辨シ且目ノ) 男性ニ我
 吾辱辱
 ニ世世ニ概ニテ直実ナニ、身ヲ救ヒテラカス
 Aug-abandonment
 美德ヲ具シタルモノ比レシテ (著者はホモント
 ノ作沙翁ノ作目ヲ
 流ニ別ニ取リテ詳論セシ)

第七節 バビロニア

第一新文明ノ新美術ヲ生ヤ待入ニ留テ、普通貴族
 Juliaヲ取リテ其ノ言法ニ表自ス然レ且同ノ普通貴族
 々々中ニ見ラシムル其ノ表自スルモノト、別ニ何
 一國ニ就テ見ルモ前者(詩人)ノ多数ハ後者(大詩人)ノ
 ニニテ固
 續スルノ定向ナリ Guiltless de Castro. Power de m

Antalvan Tiro de Madina 言ハレバドノパー...

北ニ Voyages Van Robt. Ron boats Van Dyck

ルニ Voyages Van Robt. Ron boats Van Dyck

フニ Voyages Van Robt. Ron boats Van Dyck

ニシテ後ニ Voyages Van Robt. Ron boats Van Dyck

者ニ Voyages Van Robt. Ron boats Van Dyck

トテ比較シテ Voyages Van Robt. Ron boats Van Dyck

英國ノ軍艦ニ Voyages Van Robt. Ron boats Van Dyck

ノ継子ナリ (彼ニ喜モ喜劇ニ有名ニテ The Fox, The Sea-

lent Woman, The alchamyt ナリ大佐ニシテ The Sea-
 man 一節ノ著者ニ書別ケルモノニテ Gresham in
 King hammer 一語ニシテ若クシテケガリテ大佐ニシテ
 中世史學ノ一書ニ歸リ又本年ニシテ兵書ナリ 和蘭地方戰

此エリソノト戦ヒ十九才ニハカニ過リ始テ程遠ノ待ハヨリハ
決固ニテ柳年ヲ殺シ獄ニ投セリ 死刑ニ處セラレハヨリシガ幸
ニ免レテ二十才ニテ妻ヲ娶シリ 其後断作花トシテ名揚カシ
ガ家増加シテ是ヲ河内郡トシリ而シテ自信ノ念逐ク見識
ヲ奪ヒテ余ノ過キタルヲ世入ニ媚ルルヲ庸シモ其博
覧充字ヲ利用シテ或モサレ俗詩人ヲ嘲刺シ或ハ我ハ己ノ
見識ヲ劇中ニ寓シ世人ヲ見ルル 教師ノ小学見識ヲ
見ルカ知ンヤキ又シオシテ 既ニ義使ハ一編ナリ常ク彼ヲ補
助シテモセシ Eastward & Home ト題スル曲中ニ蘇国ノヲ
嘲リタル一節アリ之カ爲ニ其署名作者マートントチアポリン
トガシクエエト王ノ姓ヲ解觸シテ指シトヨリ耳鼻ヲ割カシトト
セシ中ニシカシク若リ出テ彼等ニ代ラントセリ後許カシノ婦
ヒヤ其母劇妻ヲ示シテ曰ク汝若シ慶刑ノ耻ヲ受ケントト

ナリバ其妻ヲ殺スヨメラ其耻ヲ免シト思ヒキ而シテ我自ラ前導
ヲ試シトトシテキートけ母ミテケ子アト洋スルコトシカシクノ晩年
ハ是ク困窮ス年ノ中ニ勝ルルモ方ラス彼ハ妻後子後食
困ノ理ニ終ヒリ

其二ハ筆ヲ以テ著者細カニシカシクノ博學ヲ吐論シシカシクニテ
Genuine Literary Librarian トト洋スル 且曰ク彼ハ
鮮蒙ニ位メテ 樽ヲ負ヒ人ヲ助ルル其器機穢 且日ニ負テ經
儀年故其峻速トテ駿馬ニ似たりトケ言葉ヤシカシクカ其
寧ホハハシキシクニシカシクニ 夫ラフキ淺大抱負ナリ文藝界ニ迄
シテ巧ミ復雜ト世癡ヲ描破シシカシク 眼前ヲ評シ得ク妙ナ
トスルコト著者又シカシクニケラヤシク 表術(海)ニ精通シシカシク
ヲ叙シル後彼ヲ向世詩人ト比擬シテ曰ク他ノ詩人ハ始ト夢
想者 (visionaries) トシテシカシクニ 始ト海軍家 (logicians)

ナリト之彼が作ノ多記然モシラ記シタルナリ冷シテ百ノ若シ
彼ノ以テ其賜セト文体ト目ニ於テ他ノ詩人ノ後リトモトシ
彼ノ他ノ是ニ於テ彼等ニ方シリ彼精靈ノ割亦者ニシテ彼全
リ多ノ規矩ニ拘泥シ又余リ多ク理屈ニ偏セリ即佛理及
Theoria) ナリト又曰大人間ノ復雜ニヤ人間ノ諸成分ヲ唯
相結的ニ看察スル海理ヲ以テ得テ完尽スル所ニテ之ニ況シヤ
是等諸成分ヲ打ツテ一丸トシテ治癒ニ為スルルヲヤ吾人
若シ人物ヲ以テ活動好思セシメトシテバユス神来ト狂執(カウキ)
トモトモトシテ之ニ者ニテ具ニ即心自ラ夢中ニ行クニ如ク
衝ノメ、斯クテ著者ニ又引カランニ於テ神来ト狂執トモカケルヲ
之ニ彼ノ或ル概念ヲ捉メ来リテ於テ之種カノ又名ヲ附又ルニ思ナ
スニモナリナリナリノ海論ニ於テ面白シ至書ニ於テ見ヨ
其ノ第四、第五ノ章ニテ著者ニ引カランニ於テ作中ノ種々ノ比擬

ヲ挙ケテ前論ニ足ラ補ヒタリ今要ス

第六ノ章ニテ著者始メ沙翁ノ事ニ移リ彼ノ友人ト藝術ト
ツテ解スルノ極テ困難ナルヲ辨シ彼シテ知ラセシトモ最モ進歩シ
タル心理学ニ據ルニ能ハズトシテサテ後、人ノ天性ノ依テ、狂妄ニモ
ノナリトシテ理論ヲ詳述シ沙翁が眼中ニ透タリシ人間ノ實ニ如ク
モノナリト新言シテ如何ニシテ沙翁が心ヲ秘匿シテ其ノ具ニ
ヲ描写スルヲ得シカト向ヒテ之ニ全クシテ之ヲ論ズルニ力ナリト
之ニ新得満田相の後方ノ性質ニ論及セリ著者ノ云フ所ニヨ
シテ想像力トシテ人ノ感物ノ幾分又ニ皮相又ニ骨組ノシテ想像
スルニ止マラスシテ人又ニ物ノ全部全体ヲ生クニ如ク、想像シ其
一挙一動ヲ、^①理法ニ依テ、^②衝キテモ實現スルカヲ云フモノ、如シ而メ
著者ハ沙翁如クナリケカヲ專有セリト云フナリケ、人ノ狂也ト云フ論是
非一説ニテ價值アリ

第四章 ロキエローヤ

第一は驚きの不可思議な如何なるものか
しかたなく其情を妻の内に入り即ち彼ノ心靈と天
オトノ然るにその境遇は外物より得る所の如く
希たり蓋し彼ノ忠代と密接ノ關係有し実験する
都鄙ノ風俗上中下ノ社会ノ人情ヲ知リシリキ即チ
彼ノ人間諸階級ノ内部良入シテ彼等が性癖ノ
蘊奥ヲ窺ヒ得ルキ彼ノ得る所の唯これに餘
無シノ天才ノ自然ニ出ラシリ物ヲ著者に以テ事ノ研究
ナルヲ証セシカ夫ノ簡畧ニ彼ノ傳ヲ叙シ彼ノ其初メ
放逸多惰チリシヲ未チ十九オトナシ己シテ年嵩サノ
妻ヲ娶リシ事、直カニ出テ先チ己ニ思フ持

シリシヲ都ニ出テ位者ノ見習ヒトシ劇場ノ助手ノ兼
ナリシ事、直ニ於ん痛苦憂愁ノ形迹ニ彼ノ其年
ノ作人 *Wagner* 見ル事、梨園ニ入り後々ノ彼シノ
行ヒノ高尚イナリシ *Montgomery* ノサンクナド云ノ貴
族ト交際セシ *Beethoven* ノ詩ニ彼ガ *Wagner*
ノ事ヲ見ル事、其後ガ愛情ノ激烈ナリシ証ノ其
Wagner 此後ガ事、彼ノ田舎人樂器ノ如ク徴
船ニテハ *Wagner* ノ一人 *Wagner* ノ人
ナリシ事、彼ノ復サシキ博シキ人柄ナリシ事、証據ハ
Wagner ノ事、又 *Wagner* ノ事、
ト云フナリシカ言葉ニ又忠代ノ人々ノ嗜好
ヲモ著ルシ見 *Wagner* 彼極メテ物ノ同感シ易ク天

ヲ是ハ自在ニ我リ忘レ他ト同代ス底ノ夫オラ有コシ
フ。中平以後は加ニ財産ヲ依リ有福也地方紳士
トナリ終リて事定メ彼が表出ト先見ト見テ事
事ニ論及シ如き是レ彼ハギオテニ事コノ其區
許ノ想像力ニテ想像ヲ生スル危険ヲ免シ
テ昂チ其情ノ極メテ盛大トシカ爲メ情態ノ奴
シラ免シコトト論結セリ。

第二著者はけき多クはテ沙汰カ文体ニテテ沙汰ヲ知
ト勅メテ先ツ彼が囁言ノ *Compromise* ニテ *Apom-*
monia 在リテ記シテ例ヲ奉テテ如何彼が文章
ノ猛烈ト云キテ結合アリ成ルカヲ記シ彼ノ文体
ニ狂乱体ト稱スコト謂フリ備又著者はハシツトテ

作者自身ノ代現ナリトシ *Compromise* ノ如キ彼が
無藏ノ神来ヲ記シ得テ餘リアリトシテ註ノ作ノ中
見テ又譬喩ノ典ヲ用テ無限縦横無尽ナルヲ稱
スルカクテ又更ニ前論ヲ総括シ人ノ思想ニ分析的
ト創作的ト別ルンヲ示シテ沙汰ノ後者即創作的
思想ニ屬セリトテ并明シテ所イト面白
基ニ著者は更ニ深ク彼が作ノ内部メリ込シ彼が
如キモウリスト *Compromise* ノ如ク人物言語情
行爲等ノ美醜善悪ヲ取捨セシテ其が狂熱ノ想
像ヲ忠ニセリト即 *Compromise* ノ事
ヲ脱却シテ人向テ描寫シ卑劣猥褻強迫者
ヲモ離スルニテ自然其物ヲ甘美ニ自然ノ全体ヲ美

トモト者念せん。彼一人セウ高尚ニセト。望ムコトヲ只
管人セウ摸セト。トモト最メえつ。但原本ニモ桶一層
有力者明ニモトトテ。摸實ニモト。動マシム。故ニ彼
レノ位ニ或儀ニ知ル所アリ。隔各邦。卑苛酷。猥褻
等ノ疾アリ。使シテ。等シ。彼カ諸作中ノ人物ヲ例トシ
テ証明セリ。

第四著者ハ沙翁カドラス。カソ子ノ皆同類ニ属ス
。即何シモ情熱。トシテ想像力ニ富ム。人向テモ
。之ニ其最下等ニ近シ。歎歎ト一般ノ痴愚ノ情熱
。トモト等シク同類ニ属ス。トモト。彼ノカリバンク。トモ
。トモト。如キ。意志ト理性ト。トモト。情熱ノ人
物ト。其也。コロニア。及カソ。トモト。如キモ。始ト。臆

ツクキ先カ如キ人物ト。又身同ジ類ニ属ス。キモナ
。著者ハ。トモト。抄出シテ。其然リ所。以テ。説明
セリ。

第五著者ハ。叔知。滑稽ノ人物。論及シ。沙翁ガ人物
ノ中ニ滑稽ノ人物ニ種アリ。Fableト。Mistakeト。前
者ハ。理屈。トモト。出シ。滑稽ニシテ。後者ハ。性。トモト。出シ。
滑稽ト。トモト。其別ニ論シ。マルカ。トモト。スル。トモト。
等ノ例ト。トモト。洋論ト。

第六著者ハ。女性ノ洋論。及ビ佛蘭西ノ演劇。更
。ハ。女性ノ稍モ。トモト。男性トシテ。沙翁ノ実ニ。セウ。トモト。
。ラモナ。トモト。コリア。等ノ例トモト。
カ七。道理ト。徳義ト。トモト。服。トモト。情熱。トモト。圖ノ人物

ラ書クツニ妙ヲ得ル人詩人ニ取リテ、山陽ノ曹漢ヲ創作
スルノ易ク人ノ心ヲ切テ物ガイデオロギイニキカテノメライスト
フシト相弁ラ立ウキモノ、切テ物ハ其ニ形而上ノ不義
奸悪ヲ取リテ之ヲ形而下ノモノトシ、具象的ノモノトシ
カヲ有セシテ、イデオロギイノオモロク、討シテ、抱人、要意、其
本性、生活、及習練ノ自然ノ結果ナル、彼ノ劇中
ノ事件、之盛トシテ、佐カモセシ、其物ヲ見ル如キ思
アリ (アリノ、題、面白シイ、イデオロギイヲ細論セリ)
常八沙翁が不羈魚制限ノ情熱的天才(劇ノ
全電力ヲ維持シテ、大人物ノ作辭ヲ描ク、當リ
テ更ニ著ク見ル、蓋シ、執着下現性ト、束縛
ヲ脱シテ、之ニ破裂スル、ア、ニ、狂亂的盛情ヲ生

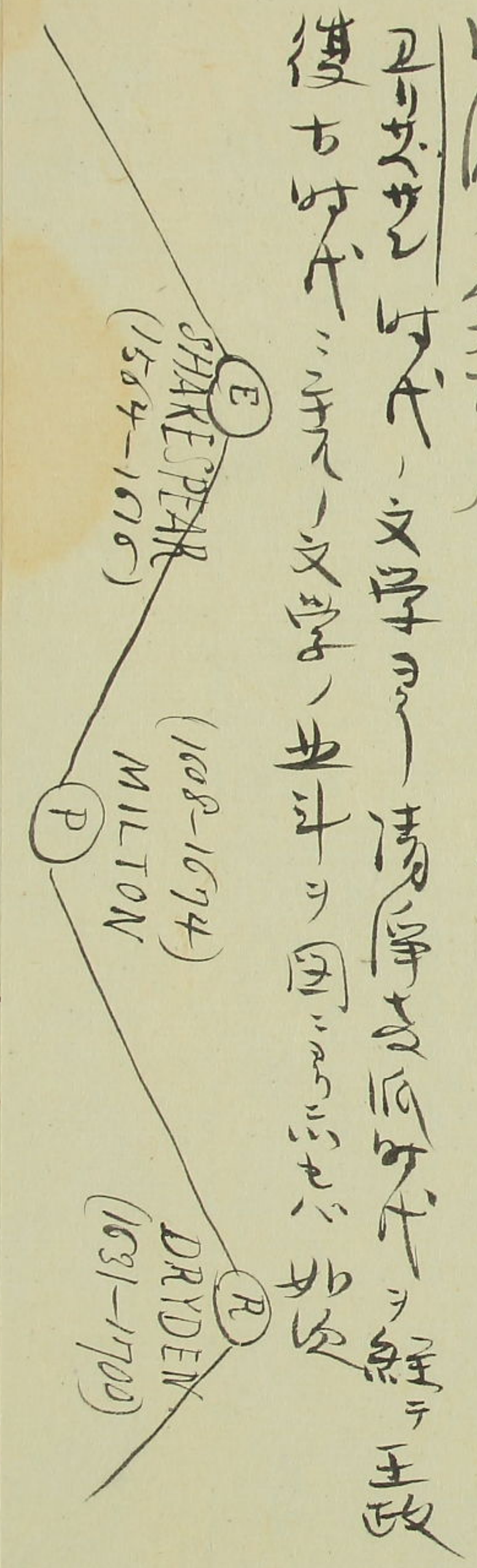
シ、タルモ、彼ノ劇ノ主人ニテ、*Quackling Clepper*
John Henry Madamed *Forst* ト、何モ、終
駭絶ノ作物ニシテ、純粹ノ想像力ノ無上ノ努力
ヲ成シ、モ、即、過度ノ想像ト、想像ノ病ト、ラ
表現モ、モ、ナリ、又、到底、理想ノ力ヲモテ、思、合、推
定スル、能、サ、ル、所、ノ、理性ノ、疾、病、ヲ、表現、シ、ル、モノ、ナリ
其、人、ニ、美、ク、之、ヲ、駭、絶、ノ、人物、ヲ、評、判、ス、ル、能、ハ、ズ
且、其、ニ、シ、テ、ラ、譯、ス、ル、モノ、ニ、シ、テ、其、評、判、ノ、切、テ、物、ヲ、譯、セ
ント、ス、ヤ、行、キ、也、隆、ノ、大、市、府、ニ、入、リ、テ、之、ヲ、如、ク、臆、テ
方、向、ヲ、迷、ラ、シ、テ、シ、彼、ノ、事、ヲ、皆、々、ニ、シ、テ、結、合、碑、ヲ
ノ、シ、カ、状、ニ、テ、其、他、ヲ、多、ク、傷、セ、ユ、ト、流、菴、ニ、シ、テ、ナリ
テ、レ、ン、ニ、シ、テ、ニ、テ、取、リ、テ、如何、ニ、彼、ガ、應、身、柳

魂ノ人ナリカ分拆シテ細評し更ニ多クニ轉シテ
若シユリオシテスノ一セシテ ~~Memorabilia~~ *Memorabilia* ノ史ナ
リトシバ *Memorabilia* ノ一セシテ *Memorabilia* ノ史ナ
シト云ヒ如何ニツクテガ平キ妄想界ニ彷彿セ
シカ如何ニシテ彼ノ妄想が其狂乱ニ達スルニ至
リシカウ解剖シ其言リ屢狂乱ニ接近シテ
ヲ并シ又 *Memorabilia* ノ細評ニ及ビシト一代モホク
コリスノト同ク *Moral Poisoning* 物決チリヤ
如何シ公トトガ池芥ニ狂乱ニ接近シ行ケルカウ
細論シ且如何ニ公トトガ天性詩人タルノ心靈ヲ
具備シ事ヲ実行スルニ適セシテ偏クニ多ク想
スルニ適シカウ論シ公トトトイハル物且人ナリト断言
セリ

著者ハ言ハラシク *Memorabilia* ノ一セシテガ心理説ヲ組織セバ
彼等ハ公トトト共ニシテ *Memorabilia* ノ一セシテガ心理説トシテ
ヲ附其モシシ多クノ機因ヲ見備シんニ来画
形テ *Memorabilia* ノ一セシテガ心理説トシテガ機因ニ
テ成シル世界ニ生息スルモノ而シテ其ガ行為ハ
流治交遊ニシテ *Memorabilia* ノ一セシテガ機因ニ
若シ *Memorabilia* ノ一セシテガ心理説トシテガ機因ニ
ト共ニシテ *Memorabilia* ノ一セシテガ心理説トシテガ機因ニ
氣分ニシテ *Memorabilia* ノ一セシテガ心理説トシテガ機因ニ
不手理血束縛ノ本能ニシテ *Memorabilia* ノ一セシテガ心理説トシテガ機因ニ
獸ト詩人トノ混合ナリ即 *Memorabilia* ノ一セシテガ心理説トシテガ機因ニ

Rapture 仰るに及ぶ徳性一欠せしテ情感はしこ
 代り偏るに想像力ヲ以テ教却者トシタスモノ
 不しテモモ自カカシテ復雜ナル周圍ノ事情
 ニヨリテ安リニ苦痛、死、狂乱及死ノ域ノ邊
 じちるしモノ之シテ人術トトト
 第九カノ想像力ニ届くル詩人カ自然ノ摸倣
 ニシテ安カズルヲ得テ力ヲ沙汰シテ現實界ノ法則
 ヲ破テ安カズルニ躍リ出ラズルニ蓋シテ
 理ヲ離シテ人ノ創作若シテ想像ノ最上級ナ
 リ彼ニヨリテ考理ヲ賤シテ別ニ一種ノ条
 理ヲ創作シテ實ト想トナシテ一種ノ新
 秩序ヲ作シテ試ニ彼ノ空想ヲ成シテ之ノ

劇ノありき見ヨテ其外面ニ荒涼無稽ニシテ不条
 理ナシ氏其根柢ニ条理存在ス正ニ之シテ或ハ
 夢ノ国土ニ於テ安カズ人ノ之ヲ見テ實カカ如何
 感ス之也其見スルニ何物カ支劇ノ多カク其ノ國
 土ニ外ナラズ *Oh you like it - like a boy in
 a night-dreamer night's dream*
 田舎ノ夢ナリ



王政復古時代

清澤交派ノ敬春畏怖ノ念ハ一轉シテ夢ノ如キ空想トナリ此乃
 其極端ニ流シ肉体ヲ踐シ快楽ヲ愛シ自強ト全國ヲ亂
 六三三三ー彼等が政治上ニ勝ヲ制シ共和政治的統治ヲ行フ
 マ彼等ハ全英國人ヲ奉ケテ神ノ國民トシテ欲シ一伯
 人ハ良ク畏怖ハ何時カニ共ニ此ハ無根ノ厭刺トナリ情
 降敵ノ及規ハ寸寸カウニ政府ノ法律トナリ英國民ヲ奉ケ
 テ神ノ國民トシテ全キヲ奉ケテ愛シテ歡喜
 ナキハ如キ國トナリシノナリキク云ハレテ去リリヤード次
 ナ共和政治ノ基礎ノ斷ク搖ラヤ思ハレキ及却ノ潮流
 ハ多年舎俗遠逝ノ佛國ニ流寓セシキヤールス
 ニセテ戴テ卷キ返シテ来リ一國ハ共和政治ヲ轉復シ

全英國ヲ轉復シテ没道徳没人情ノ俗ノ中ニ陥シ
 又之ヲ王政復古期トスル時ニ至リ佛蘭西風ノ奢侈
 ト遙遠トハ其風流ノ昔好ニ伴ヒテシテ久シク神主
 義ニ倦ミ果テテリシ実物主義ノ英國人ヲ驚ヒシカハ
 其陸落壞乱ノ甚キキ一言決口得テ言フカウニ放
 萬邪淫ノ王ヤールスノ嗜ム所清司百官ノ言フニ及
 び流民死之目ニ故ニ後宮ニ威嚴アキ素樸ノ如ク
 其下ノ有様ヲヤ美德ハ何時カ人而ニ存スルカニサレモ
 ト見テリシ要徳ハ揚々トシテ青天白日ニ照ルコト
 コソ人前ノ本性ナシト流俗ナリモ所ノ頑學ホツガス
 ノ如キモ其哲學ノ著書中ニテ人前ノ私欲的動物

学が陋劣なりしかう知ると敬ぶに非ざらん一文学史
ノ一二枚ヲ派ルノ外ニコレトイハル者代ノ先劇あり海
キヲ見ヨ世君ハ唯コレヲ退クルハナラ踏踏セテハ
ち代ノ没入等ハ詩舞ノ虚中ニ入ルコト思メサリし
實ノ皮相コレノ混ニ多ク彼等ハ浅薄ナル実家ナ
ヲ写スツテ知リテ人指ヲ描クテ知ラサリし
人指ヲ以テ人指トシ世ヲトシ美妙不可思議ナ
ノ宇宙ヲ一セセムコト夢ヲ寫セサリし
的人種ナリ直ノ待歌ハ大ニハトシノ大掃情詩ヲ殿トシ
リ英國ノ大文豪トシテ多ク又英國ハ大俗ノ國トシ
キゾアリ女王時代ノ散文ノ精者ヲ見ルハ純ス大俗
ノ文学ノ横行セリ偶クレンドンテカニハ如キ

著作家ノ文章及アリとも彼等得テ多ク周囲ノ気
味也せん得ナリキハ後職トシテ其内ノ彷徨
コレノ極處苦悩コレヲフコトテ一途ノ妙者ヲ認得
大寫言ノ著者バヤンコレヲ以テ其處コレ敷然海
タリシモノハレオンコレトシテナリハニ者ハ懐疑ノ
ナルヲアリストメ称スコレ人ノ久シクハ舊敗文
ヲ流ハラテ居シトセス連ニ其レテ革命以後ノ文学
叙述スル

第六章 革命時代 (十八世紀)

其人今ヤ所謂英國ノオウカス時代ニ近クテ
文学ノオウカス時代ハハハハハハハハハハハハ
幾多ノ詩人文人見ノ如ク輝キト同時トシテ

Clubs; Coterie.

アノ世主オウカニスノ口コシ文ヲ學ぶ保護スルアリシ
カ一代ノ文華榮光トシテ古今ニ誇シリ英ノオウカニス
ハ代ノ主イテハ其趣異ナリ女王アリ織物ヲ夫
婦人ニシテ風流ノ好ナリ社会モ亦詩歌ニ富マサ
リシカバ文学ヲ文学トシテ妻妾保護スルモノ殆ド
ナカリキ蓋シ当代ニ政治論政黨争ノ時代ニシテ
文学ニ直一員アリ過キサリシテ従テ文人ノ保守黨
ニ屬セサレバ民衆ニ屬シ政黨ノ為メニ文ヲ作り又
代ノ又何人ヲ主トシ人身政變ヲ言トセシ時代ナリ又
コレナリスル時代ナリ而シテ是等皆御執ニテ相争
ハザレバナリキ故ニ真理ヲ真理ノ為メニ攻定セシ
時代ニテハナリト又ナリキナリテ其物自身

Self-conceit

ノ考メニ執中ノ暢緩ニ研究セシ時代ナリズ将々滅
実ニ宗教ニ情依シシ時代モアラス否当代ノ情依ニ
嘲諷輕蔑ノ時代ナリ経テ当代ノ文才唯他ノ款
点ノシテ杆キテ其美ヲ看ルコト之ニ警言ニ言ヒ表
ハスヲ要トスルキ教授リト曰フノオウカニス文人ノ決
感情ハ其情然ノ外ニ浅薄ナルカ如シ就中其文
字ニ直一員ニ所然ト蓋シ文学ハ其物ノ為メニハ
研究セシゴト休息ナキ望望ノ名聞欲ノ表自
法トシテ養成セシコトナリ要スルニ当代ハ自信
ハ代ナリ者代ノシラヒモ古今ニ勝シタルモノ保
浅々シクモ自信セシ時代ナリ
其授マシシ、自の、如メテ、年迄ノ時代

ラ洋シテは皆大英(國)ハナリシキリヲ絶滅シシトテ下
リメトシテ一実ニテモ代ハシノ時式テアラスミ
トシ如ノ最良ノ代ナリト人ノ数多輩出セシガ下
ライシストナリシガニシノは人信中大多數ハ決シテ後
世ヲ名ヲ残ハ能クナリシナリ。ナシモ多散文名及ガ
半出シホ元ノ端終ヲ南キ新聞紙雜誌取通文
庫ノ源ヲ開キキリバナシバ之ニ無ルシニ散文ノ
ハナクノ宋名ヲ以テモ無事ナラシメ又一大切ナルハ
け時ヲ以テ文人ガ一人ノ保護ニヨリシテ社会ノ活眼
ニ依頼スル様ニナリ又博士シオシシカハスルモナリ
送リシ書ニ附カニけ移リ極リテ表スルモノナリ
テインニ例ノ周圍ト人種トガ文学ヲ作ルト云フ原

理ヲ根底トシテノもの年ノ革命ト共ニ社会ノ風俗
ノ變遷漸ク萌シ人モ文学モ亦亦月ヲ改メキト
テ件ノ革命ノち時ノ風俗ヲ叙シ直モ此ノ體本
ハ依然トシテス後アト朝ノ有様ト上ニ朝廷ト下ハ
裏棚迄ノ向ニス井トガガリ心物決中ニ寓シタル
Societyノライシタラ見シトテ得ルモノト仔細ニ
其実状ヲ活寫シ二十年間大臣ナリシウオハル行
為ノ例トシテモ代ノ腐敗ヲ証セリ備轉シテ日ノ
然氏斯ノ如キハ皮相ナリ其腐敗風俗ノ根柢ニ
二道ノ腐敗流毒ニ既ニ湧キナラシトテアリナリ
情流トシ河ソ例ノ Practical Moralityニ有ニスル
英國ノ大世ナリトテハニ洋カニ英仏ニ人種ノ世辭

相尋う叙し佛人の流う好し交際するを純粋の
 香念う好し皇理を愛ス之事八世紀にキリテ極し完
 し一躍躍こ^無懺悔ノ革命よりし所以英人の之を交し
 テ冥然深思をなす^之に^{シテ}實を愛し偏^る之^を實際的道
 徳^ヲ有^る之^を彼等ノ義務ヲ重^んじ教化ヲ主^とし其
 極^をヤ^キキ^テ矯正ト^し計^をた^りト^し例^ノ面^白ノ^対照
 比^論を^もり^テリ^ン文^書代^ノ況^を交^家バ^ロン^の
 ボ^マット^ハク^ス見^守ノ^況を^テ評^しテ^は彼^等ノ^流を^評
 勵^ノ方^ノ本^領ヲ^志シ^テ徒^らし^合拆^的的^的調^子
 之^に泥^ミテ^毫未^も治^気ナ^ク其^文之^を強^ト股^骨ノ^如
 其^演説^ノ様^子ニ^実ニ^アテ^リン^ガ評^せし^如ノ^自由^人
 形^ノ單^調子^ニキ^キテ^動カ^スカ^如ク^ナリ^ト評^しヤ^ガテ

心懐^こハ^言華^流々^ニ堪^ハス^況ま^文ノ^底ニ^教化^ノ
 効^力ハ^潜こ^シテ^其其^文ノ^取ル^ニ足^ラズ^キニ^其其^効ハ^獲
 リ^キモ^ノア^リ彼^等ノ^序々^同俗^改良^ノ効^果ヲ^セセ^シ
 ナ^リト^論シ^テ所^謂十八^{世紀}英^文字^ノ由^来ニ^所以^テ
 証明^シ更^ニ進^ミテ^凡テ^ノ字^彙的^的文^字的^的政^治的^的文^字
 ノ^如質^ニ及^ビ如何^ニ彼^等ノ^書ニ^實際^ノ効^用ヲ^有
 ン^ジ直^自的^的ヲ^逐ル^ルヲ^唯一^ノキ^段ト^セシ^カテ^論
 論^シヒ^トセ^リン^ガ演^説ノ^如何^ニ劇^烈ニ^シ
 テ^相駁^スル^カ又^{如何}ノ^正理^云道^ト云^フヲ^眼目^ト
 シ^シカ^テ論^辯ス^ルカ^有例^ノ如^ク直^入ス^ル面^ノ
 ア^タリ^見心^地ニ^テ面^白ニ^シ

アテラントスウサト

英ノアウガモ散文学ノ一六也其散文学ノ二傑ヲアケ
ソノス中ストトラス其内子多オニシテ文ヲ行ハシ自由
ナルト其人ヲ終老感動スル妙ヲ得ルト其幸ニ
貴族心ヲ脱スル死子トハ二者共ニ其任ヲ同シカモ
リ只其内歴ト性癖トニ異ラシク古来ハ人ノ如ク
相及対スルモノイト希ナリアケソハ老ノ龍見ス中ト
ハ当代ノ悪己子アケソハ多ク辛スサトハ不思前者ハ
温厚後者ハ酷薄前者ハ人向ヲ愛情以後者ハ
ハ人向ヲ憐憫前者ハ優雅後者ハ粗樸前者ハ
其美トヤヤ子ノ如ク後者ハ其美トヤヤ
疾ナル夜又ノ如ク
ジモウアケソ (1692-1719) ハ徳官ノ子ナリ幼ニシテ

其親友ニケルト共ニカヤルハハニテ子母ヲ更ケヤカテ
コクニナルトノ大学ニ入ルニ及テ風ニラテン律法ヲシテ詩
名ヲ得タリ卒業ノ後後ハソモナク國王ヲ拜リカム
厚ニ勲徳ノ詩ヲ依リテ年俸ニ入ルハト大
陸邊界ノ格貴トテ得ルニ彼ノ因有ノ因雅シ
地質ト傳美ト文才トカカハニ於テモ文雅
ナル國即伊太利佛ニスノ歴遊ニシテ益見
美ノ極ニ近キヲ蓋シアケソノ南洲傳美ハ半ハ
其子向ニキハ其地来ニ由来スルモト云フハ彼
湯亞寧然ニ其儀人ニシテ他人ト争ハシ好
マズ彼ノ政略上ニ於テモ社交上ニ於テモ其心ヲ改述
自由主義ノ人ナカ其論ヲ書キヤ秘スニシテホク

南テ到シク教書ヲ攻撃セシメシ他ニ又對ノ政書
ニモ擧グコシテ改述書大改ノ中ニモ擧グ漢文ニ再撰
セラシキ也シム改述書ニ全盛ノ中ニ於テ人彼ニ此書
登用セシ内務高書ノ顯職ニテモ一任ナリ又之皆
彼が自然ノ愛國婦トシテ高麗國有テ其地質
トノ結ニ所ナリキ
彼ハ皆子もト共ニ廣ク人情世態ニ通ラザル彼
ハ人ヲ娯樂セシメテ同時ニ博ク人ヲ啓蒙獎勵
セリ現ニ直隸位集トモ云フキハ刊新志ニ列
テトシノ如キ大ブリテレ録外ニ要領ト無識トテ
駁逐セシガ爲メ、發覺セシ執務ナリキ彼論又
ニトシテ修身育家ノ道徳法ヲ示シハハシ又

マキハ
五五五五
テ統キ一且
件ニテ統
形ノハハ
統ハキ

ハ儒和モ嘲世風俗ノ僻語文字ナクハハシシ過シハ耶
ミシテ俗モモノヲ要シ文ミシラ排ナシモノヲ要シ内政
ヲ退ケ義務ヲ奨励セリ然レバアハシシノ格理ハ要
スルニ要ス世間的ニシテテ需ニ實際ヲ離ル事能ハ
ズ去シバ具宗教思想ノ如キモ幸々信具アハラズ
又其来未ヲ信シヤ也之現世ノ幸不辛ヲ云ハシセ也
彼ニ来未ヲ信トシテ今モ善行ヲ嚮テ活モト勉メ
ルモ、如シ彼ヲ測テ今モ今モ、此ハ人ノ行ハ
知ルフニアラシテ行フ事ニアリ、其實踐行フ
者トシテ所、如何、儒子主義、似カシ
ルシテレハ、アハシシノ想ノ卑キヲ歎シ氏
蓋ニヒラテ得サリシ所ナリ

ジョージ・スワフト (George Swafoot) のイギリスのカブリシ
ニテ生ん英國人ノ著ナリ其文零落英國人ノ神ノ設
カリシカハ、スワフト、幼少ヨリ且縁者ノ厄カトナリ人ト
ナリ備テタカシク九トリニチコレラノ卒業シ人ト
遠キ縁者ニシテ其政始界ノ盛名アリシ
ノ屋敷ノ食卓トナリ書記ヲ兼テナリ其寄信中
経験ハ先ツ大ニ彼ラシク人ヲ更ニ世ヲ恨ムル令ラ醸
サシメキト云フ其ハ王ウナリカム屋敷カシノ屋敷ニ
臨幸アリシガスイフト、其度シ王ニ渴シテ言セオラ
賜アリシハ辱ナリシカハ私カク昔志アリシニ其望
ハ皆棄テ歸トナリ又之ヲスワフトガ轉軻不遇ノ發端ト
ス其後ハリシカハ伯ノ侍僮トナリテアイランドニ降

行シ年々英系ニ集存ニシテ陰ニ政治文字ノ關係
ニ名聲漸ク高シ彼ノ最初ノ力作ハ其書ノ藉ノ對
争并ニ抑物該ナリ一ツ文壇ノ汎刺家トシテノハ
政治社交上ノ汎刺家トシテノ彼ノ名譽ヲ高メシモ
ノナリ、其初メハ民権愛ナリシモ中ヨリ變ジテ主權
愛トナリ其後大ノ筆ヲ揮ヒ罵詈訕謔傍若無人
人ナリルシラ其筆ヲ馳望セ傍人ノ榮職ヲ得ル
能フヤヤ又一轉シテ大ニ政府ヲ攻撃シ有名ナリ
Dunbar's Letters、如キハ英皇政府攻撃ノ
大文字ニシテアイランド人ノ為メニ作シモナリ也
時アイランドニ彼ラ等教テ一ツ強ト神ノ如クナリキ
其傑作ナリシハ其書ハ千七百年ノ中ヨリナリ

二十七年... 彼晩年... 死之...
文学史... 徒... 梅...
或... 瓦屋...
羊... 推...
新... 信... 國...
内... 文... 西...
中... 若... 實...
其... 事... 想...
其... 形... 事... 詳...
著... 見... 實...

如... 流... 美...
想... 彼... 取...
事... 實... 見...
平... 事... 實...
他... 筆... 其...
ト... 世... 通...
リ... 然... 得... 人...
馬... 膚... 上... 特...
ス... テ... ノ... 如... 彼... 世... 用... 根... 相... 通...

何人ノ特ニ後ニ通モサリシガ
 リヤリトシテ一七六一(一)倫教ノ書肆ナ
 リ五十オミシテ此ノ後ノ作アリカ
 名ガハシラシクドトシカニハシ
 和ノ作ニ或モ良画邪氣ナシ
 ニ生立チ或モ富貴ニ奉公セシガ
 其ノ種々ニ流感セラルトモ
 寫シスモノニテ中ノ中ニ或モ
 美人ガ其ノ中ニ或モ其ノ中
 リヤリトシテ其ノ中ニ或モ其
 十ノ別リ知ラズトモ其ノ中
 ニ十ノ別リ知ラズトモ其ノ中
 二十ノ別リ知ラズトモ其ノ中

シテ一七六一(一)倫教ノ書肆ナ
 リヤリトシテ其ノ中ニ或モ其
 十ノ別リ知ラズトモ其ノ中
 ニ十ノ別リ知ラズトモ其ノ中

七十年字了

百卷

一有海鏡

鈴木弘基

天智天皇御製

秋の田のかりほのつほのよまをあぢみ

わら衣手... 露とぬれつ、

(句解) かりほのつほの... 假し庵の庵のよま重きふ

と... あぢみ... 俗にアウサニといふと云

(大意) 秋の田の仮庵の真庵の皆く荒きよ我衣手

露とぬれつぬれつ乾つぬれつあぢみ人民の辛苦

いさなりあぢむ其れを思ふいよく涙で袖が乾

かぬさ

(注意) 此歌の一二の句は四つをどのの字あれども

のい字に幾つ守りても善くあまさとあ
語格) 我々夜まはのはが係辞まぬぬれつ。の
つが結辞まう一段切の格とま

持統天皇御製

春まぞ夏まよけしあろた入の

夜ますてふあまのおど山

句解) けふしを格のケルウナミ
あろた入は

白栲あま古昔庶民の常服ま其色白し

大意) けあ春が過きて夏が来たまう夏まふ

ると庶民の白栲の衣を曝すといふがその衣を

天の香山の辺は曝してあるよしの意

注意) あまの香山はあまの香とよはる方が穂

まし又は山は和の國にある山とま

借格) 二段切まよけしうて切れあまの切れ

た(り)けふし係辞ままもの則ち徒の結ま

次の天の香山は其下まよ字を採つて見ると格

まよ

柿本人麿

人麻呂天武持統文武の頃より元明の朝の頃まで
世も知れたる人あましくし世之を飛聖とす
足引の山とりの尾のしたるもの

たがくー夜をひそくもねむ

句解) 足ひき山の麓斜らゆるあむたる山の
冠詞のし、ちかぐい夜、長夜のまじり
かむねむのか、俗のがふと同一と勤長の語
あす
大意) 大さうる長き此夜を獨り寝るの
ありからサテも、ついであるとの意歌

語格) 一段切らむかむねむのか係りむが結ぶ
是はの、疑歎と稱する語格也

山部赤人

赤人、人磨より少し後れて出たる人、人麻呂と
併せて飛の二聖と稱す

田子の浦にうちいてみれば白たへの
ふしの高根も雪はみりつ

句解) うちいてのうち、意味あし係言といふ
あす、白たへの、白塔の如くといふ意

(大意) 田子の浦へ出て見れば、マア白の袴布の如く
 直白にふじの山の頂も雪が降りつゝあけつゝ青翠
 な事であるところよし、素直なる歌といふ處し
 (格) 一段切あせし、雪のほが係りたりつゝこのつ
 が結あり

猿左大夫

猿左大夫の何人なるやい、詳あるが、或は聖徳太子の市
 孫弓削王ありと、然れども、確たるが
 奥山はもみぢ、ふみわけ、鳴鹿の

「小意、さく、さく、さく、さく、さく、さく」

(句解) 松の山は、端の舞いしつゝあり、もみぢ、
 「えま、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ」
 る四段治の言ふこと、何れももみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、
 「もみぢ、もみぢ」

(大意) 秋は、ふじの山は、散り、布さたる木の葉を、踏
 暮秋、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、
 みぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、
 時が限り、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、
 情を、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、もみぢ、

たるものといふし
語格一段切あり
さか結あり

中納言家持

兼家持の支に恒武の布宇の人あど
かささのわたせる橋と置くと霜の

白きを見れば夜もさけりける

句解 かささの 鶴あり かねては 海せる 橋と

かの 淮南子の 烏 鶴 填河 成橋 と なる 音 かなり

と殿上り登る西階をへるなり

大意 殿の布階におと霜の白さを見れば夜が
深けたとて ぬるがさささう 今夜の寒かりしと

天清の気爽ある曉の星を迷へたるものし

注意 ありみけるのさけりともかと同い意あり水
の深は 雪の深のさささかとあつるをさし

語格 一段切あり

安倍仲麻呂

仲麻呂の元正天皇の朝 唐より 歸路 颯と遇ふて

再び唐の地を着きて死したる唐の君を朝儀
と仰ひたる此歌に歸り送別の席を
流るるものといふ

天の原よりさけみればかすががある

よむまきの山よりむし月も

句解 天の原より大空の事と仰はるは、
同じ事として場所の唐を所をいふあり、
さけみたるは、かすがをいふなり、
さか下せる故也遠望する時は、仰向てみる
ものなるが是を振放て見るといふ、かすが

大和の國の春日あり、ちもものも、詠歎辭と
意あり俗の難ニアあり

大意 大空を仰ぎ見れば、あつ月は我が故郷
の春日にある三笠山よりでたる月影のやめで
あるが、アともふもちうかし、月影であるよと故郷
を思ふ情をのべたり
語格 一般切を係辭あし、月かものちもが徒の
結あり

喜撰法師

我つ月、みやまのたつみしかが住む

世を宰ちて世と人はいふなり

百解) しからずむししから然るなり) 此の如く
住むといふとあはし

大意) 私の庵は京都の長巳の方角に當り則ち
南東の間の山に此の如く住みて居ますしこを世
を憂ひ山住のやうに世間の人のしひまよりが愚僧
の心よりすも憂ふと思はまので至るも果てあり
まよふ

倍格) 二段切身

小野小町

小町は文徳天皇より 清和天皇の頃の人なりと多を
采女の一人とあはむ

花の色はうつりまけりなむつらふ

あはれよふふふるあはれせまま

句解) よふふふは世を経ると雨の降ふとを象たる
あはれ あはれめは淋雨と長目とを象たる
長目とは物思ひある所を空を仰ぎ見らるなり
大意) 花の色はうつりひてわちとなりてしまつた
ナアムダ子我の目教つて淋雨の青であつた

間よといひて我紅顔も衰へていさらたる事
がたに我身は経世のとにいつまで我心は任世ぬ
を勤身してある間よといひて移り易き世の
無常と歎ける也
語格一段切ありせしまふより復くは花の色
は強きにはけぶるも結とある

蟬丸

たれやあに行ともかへるも別れてい
しるも知らぬもあふ板の関

句解 されやのや俗のヨリ指牌のあらず
あられていさゝか此関はこゝ知らぬ人皆別れ
たり違ふなりするとの意あり、違板の意
と大津との間あり
大意 されよ此他國より人もまた京へ歸る
人も知らぬ人も皆此関を出れば各
別れくゝあるとてあるをこゝまた知らぬ人
が落合ふて障のも此違板の関であるよ
とあり
語格一段切ありあふ板の関の下なる

付して見える格あつし又たけしきも帰るも知も
あつぬもふいと重うたるも、長た程とあし
徒の姑と同様のものあつし

参議算

わたの氣ぬりーまをけーいおてぬと

んよにけよあまの(お母
あだの氣は海をわたつみとらに海
島をわたの氣とらあり、ぬりーまを
ーまを教マハ母の氣とす、あまの

